

# 2023 年度自己点検評価報告書

京都精華大学

2024 年 7 月

## 目 次

|                 |      |
|-----------------|------|
| はじめに            | p.3- |
| 1. 内部質保証        | p.4- |
| 2. 教育課程・学習成果    | p.6- |
| 3. 各部局別自己点検・報告書 | 別紙 1 |

## はじめに

### 【2023 年度自己点検評価基本方針】

京都精華大学では、教育研究活動の改善・改革を着実に進めるために、大学基準協会が定める点検・評価項目をベースにしつつ、本学独自の点検・評価項目を作成し、各学部・研究科をはじめ事務局も含めた全部局において、前年度の取組について自己点検・評価を実施している。

本学が2022年度に受審した認証評価において、主に内部質保証システムと教育課程・学習成果について是正勧告がなされたこと、また内部質保証の対象は基本的に教育活動であり、教育活動の充実は当然ながら学習成果の適切な把握と評価に対する大学の主体的な取り組みの必要性が近年高まっていることを踏まえ、2023年度自己点検・評価においては全部局を対象とした自己点検・評価を実施しつつ、特に「内部質保証」「教育課程・学習成果」に重点をおき、学内での全学的な点検・評価と外部評価委員会からの客観的な評価を受けることとした。

教学以外の部門においては、主に毎年実施している各種学生アンケートを実際どのような改善につなげているのかの確認に重点を置いた点検を行った。

### 【自己点検・評価対象期間】

2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日までの 2023 年度実績  
(※2024 年度 4 月以降の改善予定対応等も含む)

### 【自己点検・評価方法】

各部局において、2023 年度の活動に基づき、大学運営会議で承認された「2024 年度自己点検評価報告フォーム」(別紙 1) に沿って点検・評価を行ったほか、学生からの教育に関する客観評価として各学部の学生 5 名に副学長から個別ヒアリングを行った(2024 年 5 月 9 日~6 月 24 日)。また、今回から、教学(教務)、入学試験、学生支援に関する報告フォームについては教員部長と担当部局職員が協力して作成する形式とし、教職協同を促進する工夫も行った。提出された各部局の自己点検評価報告結果は、学長のもとに 7 月の同会議内で全学的な観点から点検・評価を行ったのち、「内部質保証」「教育課程・学修成果」箇所について 8 月に外部評価委員会からの客観評価を受け、その結果と認証評価結果をふまえた学長改善指示を 2024 年度 11 月に各部局に対して出す予定である。

## 1. 内部質保証

本学の内部質保証に関しては、2022年度に受審した認証評価において、主に以下の点について是正勧告を受けた。

- ・自己点検評価を踏まえた改善の実績がなく教学マネジメントが機能していない。
- ・内部質保証を担う組織が複数あり機能分担が不明確であるなど内部質保証体制に重大な不備がある。

指摘内容が内部質保証の推進体制に関するものであったことを重く受け止め、2023年度はまず学長のもとに教学執行機関の部局長等（副学長、学部長、研究科長、機構長、部長）で構成される教学運営会議（2024年4月から名称を大学運営会議に変更）を教学マネジメント上の最高機関かつ内部質保証推進組織として明確に位置付け、同会議において自己点検評価や外部評価を含めた検証と改善のPDCAサイクルを回す形とした。

また、上記をふまえ、本学としてさらに以下のような課題があった。

- ・内部質保証に関しては方針が大学HPに掲載されているのみで、内部質保証という言葉の定義や全体像、方針、体制や責任の所在、手続き等の全体を把握できる規程が整備されていなかった。
- ・内部質保証の一環である自己点検評価や外部評価等については個別に規程化されていたが、2022年度まで自己点検評価業務の所管が理事長のもと法人部門に置かれていたことから法人の規程となっており、学長のリーダーシップのもと大学が内部質保証の責任を持つ2023年度からの体制と齟齬があった。
- ・同理由から、内部質保証に関する体系図も、新体制と齟齬があった。
- ・データに基づいた自己点検・評価体制が脆弱であった。

そうした背景から、内部質保証の全体像や機能および役割、具体的な手続に関する内容を整理し「京都精華大学内部質保証規程」に一本化することで本学の内部質保証に関する各種活動の明確化を行ったほか、2023年度から事務局学長室グループが教学に関するIRを担い、各種学生アンケートやアセスメントテスト結果を中心に分析データを各部局に提供し、データに基づいた点検・評価と改善を推進した。また、内部質保証に関する体系図についてもPDCAサイクルが理解しやすいものへ大幅な変更を行ったうえで、同規程と体系図とを合わせて学内教職員に共有し共通理解を得るようつとめたほか、以下大学HPで公開することで社会への説明も果たしている。

<https://www.kyoto-seika.ac.jp/about/report/gjh1lq00000029dg-att/naibushitsuhosyo.pdf>

また、内部質保証における教学マネジメントの実際の機能化については、2023年度に実施した前年度の教育活動に対する自己点検・評価活動において、内部質保証規程の手続に沿った流れで検証と改善活動を実施した。具体的には、部局別で実施した自己点検・報告結果

を教学運営会議で確認したうえで全学版の自己点検・評価報告書を取りまとめ、その報告書をもとに外部評価委員会から客観的な評価を受け、外部評価報告と認証評価それぞれの指摘事項もふまえ、必要な改善内容について大学運営会議を通じて「学長改善指示」として各部局に指示を行った。また、その指示が実際に進捗しているかどうかについても同会議内で確認を行い、着実な改善が行われる体制とした。

2024年5～6月にかけて実施した各部局自己点検評価報告について大学運営会議（旧教学運営会議）で全学的観点から確認した結果、内部質保証に関連して主に以下の点が確認され、課題点については今後引き続き取り組む必要があることが確認された。

**【評価できる点】**

- ・学部、研究科、機構における自己点検・評価活動について、前年度実施時は部局全体の取組としての点検・評価活動となっていないケースも見られたが、今回の点検・評価では各部局の役職者により構成される会議等で課題を共有したうえで点検・評価を実施できている。
- ・各種学生アンケート結果については、2022年度までは共有に留まり実質的な改善活動に活用できていたとは言えなかったが、今回の点検・評価では2023年度の結果データを元に各部局において改善活動が行われていることが確認できた。

**【今後必要となる取組や改善が必要な点】**

- ・部局によって学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性、学生への説明状況に改善の余地がある
- ・各部局の主体的な点検・改善活動の定着化や、学内全体におけるポリシーを中心とした内部質保証に関する意識醸成や理解促進
- ・自己点検・評価の実施根拠となる議事録がない部局における記録の確保
- ・研究科間の連携をはかるための会議体設置の検討

## 2. 教育課程・学習成果

部局別自己点検評価報告フォームにおいて、教育課程・学習成果に関連する項目として教学マネジメントにおける教育目標やポリシーの浸透状況について確認したほか、「DP にもとづいた学修成果の把握に関する点検」という項目を当て、2023 年度の学修成果の把握・検証に用いた指標、ルーブリックと DP との整合性の実情などに関する回答を得た。（別紙 1）また、5 学部それぞれから計 5 名の学生にヒアリングを行い、主に DP の理解や教育内容に対する評価、成長実感、アセスメントテスト活用状況等を確認した。それらを総合して点検した結果、現状において評価できる点および今後の課題等について、以下のように確認された。

### 【評価できる点】

- ・全部局において、卒業・修了制作・論文におけるルーブリック評価について、DP との整合性が確認された
- ・ルーブリック評価を卒業・修了制作・論文以外の授業でも取り入れている部局がある

### 【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・学部・研究科によって利用する学修成果のデータが異なったり、学修成果の把握・検証方法が大きく異なること、共通教育機構では改善内容の把握検証ができていないことから、共通教育を含めた全学アセスメントプランの再検証が必要
- ・学習ポートフォリオ含め、学生が自身の学修成果を把握・活用できる仕組みの検証と改善
- ・授業評価アンケート回収率向上のほか、多くの学生が参加可能な教育改善のための仕組みの検討

2024年度実施 部局別自己点検報告書（国際文化学部）

| I. 教学マネジメントに関する点検   |               |  |   |       |   |
|---|---------------|--|---|-------|---|
| I - (1) 本自己点検を部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？  |               |  |   |       |   |
| ○   | はい →          | 会議体名称  | 学部教員会議  | 議事録有無 | ○                                       |
|   | いいえ           |  |   |       |   |
| I - (2) 現状の学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、2023年度中に確認・検証をどの程度（5段階）行いましたか？   |               |  |   |       |   |
| 2:確認・検証し、十分な整合性を確認できた   |               | 実施会議体名称  | 学部運営会議  | 議事録有無 | ○                                       |
| I - (3) 確認・検証の結果、2023年度中に変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。   |               |  |   |       |   |
| 特になし。現状カリキュラムの遅滞無い運営と、新カリキュラムの検討・策定・学部教員との情報共有に注力した。  |               |  |   |       |   |
| I - (4) 現状の学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。  |               |  |   |       |   |
| 特になし。   |               |  |   |       |   |
| I - (5) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、教員間の理解はどの程度（5段階）でしたか？   |               |  |   |       |   |
| 2:十分に理解・共有されている   |               | 回答理由→  | 結果的に、シラバスの記述に問題は生じていないため、一定の理解があるものと思われる。   |       |   |
| I - (6) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度（5段階）されていましたか？   |               |  |   |       |   |
| 2:十分な説明をし、学生の一定の理解を確認できた  |               | 回答理由→  | ガイダンス等で説明をしており、学部運営上、当該項目の「学生の理解不足」に起因する問題等は発生していないため、一定の理解があるものと思われる。                            |       |   |
| I - (7) 学部のDP,CP,APに基づいた教育のマネジメントを実行するにあたり、困っている点があれば、具体的に記載してください。   |               |  |   |       |   |
| ポリシー（DP）に対する教員の理解度に温度差がある。  |               |  |   |       |   |
| I - (8) 学部の同マネジメントにおいて意義がある、または効果的な取組があれば、具体的に記載してください。（例：学部内FD、教員間コミュニケーションツールの活用など）   |               |  |   |       |   |
| 特になし。   |               |  |   |       |   |
| II. DPにもとづいた学修成果の把握に関する点検   |               |  |   |       |   |
| ※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法で、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を行うことを指します。学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。 |               |  |   |       |   |
| II - (1) 学修成果に関する以下の指標のうち、2023年度中の学部の学修成果の把握・検証において <u>実際に活用・参照したもの</u> について、全て○を選択してください。  |               |  |   |       |   |
|   | 卒業制作・論文ルーブリック | ○  | GPA   |       | 学生アンケート分析（DP成長実感、満足度等）                  |
|   | GPS-Academic  |  | 定期試験  |       | 進路決定率                                   |
|   | 実就職率          | ○  | 進級率（留年率）  |       | 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）結果                 |
|   | 企業アンケート       |  | 上記以外 → （  |       | ）                                       |
| II - (2) 卒業制作・論文ルーブリックの各項目は、学部のどのDPを測定しているものか、関連が明確になっていますか？  |               |  |   |       |   |
| ○   | はい →          | 各項目とDPとの関連を具体的に記載してください。 →                     | 卒業論文査読表の大項目である「形式」「論述」「表現」がそれぞれ学部「DP3」「DP1/DP2」「DP4/DP5」と対応している。また卒業研究演習のルーブリック評価項目は「DP3」と対応している。 |       |   |
|   | いいえ →         | 各項目とDPの関連を明確にするために、2024年度中の改善計画について記載してください。 → |   |       |   |
| II - (3) 卒業制作・論文ルーブリックを除き、(1)で選択した項目を活用し学修成果の把握・検証をどのように行ったかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。  |               |  |   |       |   |
| 特にGPAが1.5未満の学生を呼び出し、個別面談を実施し、科目区分ごとの単位修得状況をふまえた履修指導や学修指導を行った。   |               |  |   |       |   |
| II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく説明されていますか？  |               |  |   |       |   |
| ○   | はい →          | 説明方法を選択してください（複数可）                             | 大学HP  | ○     | 学習のてびき2023（当該ページを記載してください。） → p. 72, 73 |
|   | いいえ           |  | 学部独自資料（当該資料を別添してください。）  |       |   |
| II - (5) 学修成果の把握・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。   |               |  |   |       |   |
| ルーブリックに関する教員と学生の理解を深めるため、卒論ルーブリックの運用に関して学部教員会議や学生向けガイダンス等で説明を行った。   |               |  |   |       |   |
| III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検  |               |  |   |       |   |

#### IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

IV-（1）各学部の学生支援体制や内容の適切性について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？

|   |      |   |               |   |   |
|---|------|---|---------------|---|---|
| ○ | はい → | 会議体名称   | 学部運営会議／学部教員会議 | 議事録有無                                       | ○ |
|   |      | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |               | 学生生活委員会報告資料、学部構成員からの報告等                     |   |
|   | いいえ  | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |               | 当該項目に関してはこれまでも十分に行われているため、改善や変更を行った点は特にはない。 |   |

IV-（2）各学部の学生支援体制や内容について、学部の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

初年次教育担当者会議、学部教員会議、学部運営会議等において、個別の学生案件についても漏れなく情報共有し議論する時間を取っている。

IV-（3）各学部の学生支援体制や内容について、今後改善や検討が必要な点があれば、具体的に記載してください。

執行部教員のみで共有されている面談記録や支援内容について学部内全体での共有ができるシステムの構築を行う。

#### V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1）2023年度キャンパスライフアンケート結果の検証時に「自学部で改善が必要と思われる点」に記載した内容について、2023年度中に実際に改善した点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）を具体的に記載してください。

キャンパスライフアンケートの中の質問12「大学をやめようとおもったことはありますか」に対するネガティブな回答がグローバルスタディーズ学科で高くなっている問題に関して、学部内での学生面談実施を徹底している他、個別学生が抱えている課題等に関して、これまで以上に学部内で情報共有をはかるようにしている。特にグローバルスタディーズ学科では学科会議を毎月開催し、細かな学生情報についても検討している。

V-（2）2023年度GPS-Aアンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

|            |        |       |   |
|------------|--------|-------|---|
| 確認・検証会議体名称 | 学部教員会議 | 議事録有無 | ○ |
|------------|--------|-------|---|

V-（3）2023年度GPS-Aアンケート結果から、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。

|                 |  |
|-----------------|--|
| 評価できる点、更に伸ばしたい点 | 人文学科に関しては「成長実感」や「各種能力の向上」「各種満足度」において他学部と比較しても遜色なく、基本的に現在の学部運営を継続していきたいと考えている。  |
| 改善や検討を要する点      | グローバルスタディーズ学科において、様々な数値に問題があり、早急な対応が必要である。2025学部再編において、これらの課題解決がはかられている。現在在籍中の学生に関しては、コモンズスペースを活用した学生間交流活性化活動や、教員の研究成果発表に学生も参加可能とするなど、教員と学生のコミュニケーションの機会を多く持つ取り組みを行っている。 |



## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（メディア表現学部）

### I. 教学マネジメントに関する点検

|   |      |         |   |       |
|---|------|---------|---|-------|
| I - (1) 本自己点検を部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？  |      |         |   |       |
| ○   | はい → | 会議体名称   | 学部運営会議                                    | 議事録有無 |
|   | いいえ  |         |   | ×     |
| I - (2) 現状の学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、2023年度中に確認・検証をどの程度（5段階）行いましたか？                   |      |         |   |       |
| 2: 確認・検証し、十分な整合性を確認できた  |      | 実施会議体名称 | 学部教務委員会                                   | 議事録有無 |
|   |      |         |   | ○     |
| I - (3) 確認・検証の結果、2023年度中に変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。   |      |         |   |       |
| 特になし。2025年度からの新カリキュラムの策定を優先した。  |      |         |   |       |
| I - (4) 現状の学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。                  |      |         |   |       |
| 特になし。   |      |         |   |       |
| I - (5) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、教員間の理解はどの程度（5段階）でしたか？     |      |         |   |       |
| 2: 十分に理解・共有されている  |      | 回答理由→   | 教務委員の間では理解が共有されているが、学部教員全体での共有度が確認されていない。 |       |
| I - (6) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度（5段階）されていましたか？ |      |         |   |       |
| 2: 十分な説明をし、学生の一定の理解を確認できた   |      | 回答理由→   | 新入生ガイダンスで重点的に解説し、理解度テストを実施した。             |       |
| I - (7) 学部のDP,CP,APIに基づいた教育のマネジメントを実行するにあたり、困っている点があれば、具体的に記載してください。                            |      |         |   |       |
| 特になし。   |      |         |   |       |
| I - (8) 学部の同マネジメントにおいて意義がある、または効果的な取組があれば、具体的に記載してください。（例：学部内FD、教員間コミュニケーションツールの活用など）           |      |         |   |       |
| 特になし。   |      |         |   |       |

### II. DPにもとづいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法で、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を行うことを指します。学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

|   |               |   |                                   |                              |
|---|---------------|---|-----------------------------------|------------------------------|
| II - (1) 学修成果に関する以下の指標のうち、2023年度中の学部の学修成果の把握・検証において <b>実際に活用・参照したもの</b> について、全て○を選択してください。  |               |   |                                   |                              |
|   | 卒業制作・論文ルーブリック | ○   | GPA                               |                              |
|   | GPS-Academic  |   | 定期試験                              | 成績分布                         |
|   | 実就職率          |   | 進級率（留年率）                          | 外部検定試験（ ）                    |
|   | 企業アンケート       | ○   | 上記以外 → （科目区分ごとの単位修得状況）            | 標準修業年限卒業率                    |
|   |               |   |                                   | 学生アンケート分析（DP成長実感、満足度等）       |
|   |               |   |                                   | 進路決定率                        |
|   |               |   |                                   | 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）結果      |
| II - (2) 卒業制作・論文ルーブリックの各項目は、学部どのDPを測定しているものか、関連が明確になっていますか？                                 |               |   |                                   |                              |
| ○   | はい →          | 各項目とDPとの関連を具体的に記載してください。→                     | ルーブリックの評価基準5項目とDP-1～5がそれぞれ対応している。 |                              |
|   | いいえ →         | 各項目とDPの関連を明確にするために、2024年度中の改善計画について記載してください。→ |                                   |                              |
| II - (3) 卒業制作・論文ルーブリックを除き、(1) で選択した項目を活用し学修成果の把握・検証をどのように行ったかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。 |               |   |                                   |                              |
| GPAにもとづく個別面談を実施し、科目区分ごとの単位修得状況をふまえた履修指導や学修指導を行った。   |               |   |                                   |                              |
| II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく説明されていますか？  |               |   |                                   |                              |
| ○   | はい →          | 説明方法を選択してください（複数可）                            | ○                                 | 大学HP                         |
|   | いいえ           |   | ○                                 | 学習のてびき2023（当該ページを記載してください。）→ |
|   |               |   |                                   | 学部独自資料（当該資料を別添してください。）       |
|   |               |   |                                   | p. 96, 97                    |
| II - (5) 学修成果の把握・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。     |               |   |                                   |                              |
| 2025年度からの新カリキュラムにおける卒業要件単位の構成や進級要件の見直しを行った。   |               |   |                                   |                              |

### III. APIに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

#### IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

|  |      |   |        |   |
|--|------|---|--------|---|
| IV - (1) 各学部の学生支援体制や内容の適切性について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？   |      |   |        |   |
| ○  | はい → | 会議体名称   | 学部運営会議 | 議事録有無   |
|  | いいえ  |   |        | なし  |
|  |      | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |        | 各月の学籍異動の報告、各Qの進級判定資料  |
|  |      | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |        | 必修科目を取り落として留年する者が目立ってきており、手厚い注意喚起が提案された。次年度から実施する。また、留年者増加についてさらなる対応策を議論する予定。 |
| IV - (2) 各学部の学生支援体制や内容について、学部の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。  |      |   |        |   |
| 休学者や、退学希望者に対しては、細かく面談しサポートを行っている。先輩からのノウハウがない中で履修の計画をしなければならぬ学生のために、細かい履修指導を行っている。プログラミングの単位取り落としが散見されるため、難易度やクラス分けの調整が都度行われている。ある程度効果は出ているが、引き続きさらに効果的な対応を検討する。 |      |   |        |   |
| IV - (3) 各学部の学生支援体制や内容について、今後改善や検討が必要な点があれば、具体的に記載してください。  |      |   |        |   |
| 学部が発足し4年目になるが、学生の傾向が学年によって異なり修学困難な学生に対する前年度までの対応策が有効でないことがある。ゆえに都度対応していくしかない。休学者、留年者の増加について学部運営会議などで対応策を議論する予定。  |      |   |        |   |

## V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1）2023年度キャンパスライフアンケート結果の検証時に「自学部で改善が必要と思われる点」に記載した内容について、2023年度中に実際に改善した点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）を具体的に記載してください。

- ロッカーの使用環境の改善（友愛館にて）
  - ポピュラーカルチャー学部のロッカーをメディア表現学部全体で使用できるよう段取りを進めている。
  - 上回生を優先的に使用の機会を提供している。
  - Agora前のロッカーは、授業ごとに申請して使用できるようにした。
- 2023年度の結果では「授業内容が高度すぎて追いつかなかったことがある」という問題がでていた。
  - 実際の状況としては、授業内容が難しすぎると感じる学生がいる反面、内容が易しすぎるという学生もあり、2 極化されていたため、授業ではレベルを分けたクラスを用意した。
  - そうすることで、それぞれの難易度にあった授業進行ができ、これら学生の問題点が改善されたと考えられる。
- 作業場問題は、クラブ棟裏のスペースを都度都度申請して使用する運用方法を決めた。しかし実際には軽度の作業が突発的に発生するため、いつでも使える場所の必要性を感じている。
- 「相談できる相手」については、教員の増強を行ったことで改善を期待したい。
- 「やめたいと思う学生」については、学生が決めてしまってから連絡が来る。事前に相談できるように、出席率の低い学生についてはアラートメールを出すと同時の声かけを行うようにしている（しかし返事は少ない）。

V-（2）2023年度GPS-Aアンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

|            |           |       |   |
|------------|-----------|-------|---|
| 確認・検証会議体名称 | 各3専攻の専攻会議 | 議事録有無 | ○ |
|------------|-----------|-------|---|

V-（3）2023年度GPS-Aアンケート結果から、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。

|                 |  |
|-----------------|--|
| 評価できる点、更に伸ばしたい点 | <p>（音楽表現専攻より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器練習室利用のためのライセンス講座の開催           <ul style="list-style-type: none"> <li>→昨年よりも早い時期にライセンス講座を設定した結果、受講生が増加した。</li> <li>→特に1年生の参加が多く、初年次から音楽環境に触れる機会が増加した。</li> </ul> </li> <li>・学生の特性を反映した実習の決定プロセス           <ul style="list-style-type: none"> <li>→2年次の基礎実習前に音楽経験などの情報を事前に収集し、難易度を調整した。</li> <li>→昨年度に比べて脱落者が減少し、履修決定の調整によって効果を発揮した。</li> <li>→3年次以降の学生に対しても、実習授業の履修を事前に綿密に調整した。</li> </ul> </li> <li>・実践的な教育内容           <ul style="list-style-type: none"> <li>→フィールドワークをはじめ実習授業も多く、実践的な教育方法が奏功している。</li> <li>→学外での実習や音楽領域の実践実習を集中的に実施し、学生の満足度につながった。</li> </ul> </li> <li>・教育目標の周知           <ul style="list-style-type: none"> <li>→年2回の全体ガイダンスで専攻の目標を具体的に説明している。</li> <li>→卒業後の進路も視野に入れたレクチャーを行うことによって学生が学びの方針を理解しやすい環境を提供できた。</li> </ul> </li> </ul> <p>（メディア情報専攻より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P5「4 各能力の向上に授業が役立ったか？」の項目について →メディア情報では全体的に数値が高くなっている（特にディスカッション、プレゼンテーション、数学的・統計的スキルなど）。これはこちらの意図がうまく学生に伝わっていると考えられる。</li> </ul> <p>（イメージ表現専攻より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「3.成長実感・大学納得度・所属学部学科を薦めたいか」の結果より、「薦めたいか」のポジティブな結果が多数を占めることから、マッチした学生の満足度は高いと言える。専攻のカリキュラム及び指導方針をさらに周知していきたい。「成長実感」についてもポジティブな返答が多かったことから、授業内容のさらなる充実を行ってきたい。</li> </ul> |
|-----------------|--|

|            |  |
|------------|--|
| 改善や検討を要する点 | <p>（音楽表現専攻より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の主体性の不足           <ul style="list-style-type: none"> <li>→講義系と実習系のカリキュラムがあるものの、主体的に制作に取り組む学生が決して多くない</li> <li>→受け身の学生をどのように主体的な制作系の学びへ導くかが課題である。</li> </ul> </li> <li>・スタジオワークの環境改善           <ul style="list-style-type: none"> <li>→希望する学生数が多いが、現状の友愛館のスタジオ設備では収容人数に限界がある。</li> <li>→スタジオワークの環境をどのように整備するかが課題となっている。</li> </ul> </li> <li>・専攻間の連携の強化           <ul style="list-style-type: none"> <li>→専攻内の授業やグループワークは積極的に行われているが、他専攻との融合が少ない。</li> <li>→各専攻が融合し、今後さらに風通しの良い学部構成を目指す必要がある。</li> </ul> </li> <li>・数量的・統計的スキルの向上           <ul style="list-style-type: none"> <li>→他専攻に比べて数量的・統計的スキルの習得が不足している傾向がある。</li> <li>→理系的な観点からの講義や実習に、興味を持たせる工夫が必要である。</li> </ul> </li> </ul> <p>（メディア情報専攻より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P3 授業のレベルが低い、課題が負荷が低いと応える学生がメディア情報専攻では比較的多い。これはV-（1）でも述べているが、授業内容が難しいと感じる学生と簡単と感じる学生が混在しており、その両方に合わせて授業をしているため、両端の意見が増えている。クラス分けなどをして順次対処はしているが、学生が個別でもできるような教材をさらに用意するなどもう少し改善の余地がある。</li> <li>・P6「現在困っていること」について、やりたいことが見つからない、希望する進路に進めるか不安の人数が多かった。これは4年生になってもまだリアリティを持っていない学生が多いため現状である。改善案として学部全体でキャリアや就職に対してのガイダンスなどを設ける必要があると感じる。また、現在まだ卒業生がいないため、今後は今年度の4年生の就職実績を下級生に伝えることでより身近に感じられると予想される。</li> </ul> <p>（イメージ表現専攻より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2.教育目標・カリキュラム・授業内容の理解」の結果から、専攻が目指す教育目標に対する理解度が他専攻に対して低いことがわかった。個々の授業だけでなく、専攻全体としての情報提供の機会を増やす必要がある。また「課題負荷が高すぎる」という意見がある。個々の授業における課題負荷について教員からヒヤリングするとともに、提出時期の調整の方法を検討する。</li> <li>・「3.成長実感・大学納得度・所属学部学科を薦めたいか」の結果から気になるのは、専攻の傾向としてはポジティブ寄りな傾斜があるが、一方で「勧めたいと思うか」の結果に「まったく勧めたくない」の数が多。このことから、ミスマッチが起きていることが懸念される。これは専攻選びのタイミングで、専攻の目指すところをよりわかりやすく、入念にアナウンスする必要がある。</li> <li>・「4.以下の各能力の向上に授業が役に立ったか」の結果を見ると、「数量的・統計的スキル」の評価が低い。授業構成から、ここに特化したものはない。また「文章作成力」の評価も低い。言語化することのスキルアップを計画する必要がある。</li> <li>・「5.満足度・イメージ変化・困りごと」からは、「カリキュラム満足度」は評価が低いのが気にかかる、また「現在困っていること」中の「学びたいことが学べていない」も強い。これは学びたい内容について、学生の希望を拾い上げる機会の必要性を感じるとともに、大学案内等においてミスマッチを避ける表現の必要性を感じる。</li> <li>・「6.学生生活・進路等」の結果からは「ちょっとしたことで相談できる教員がいる」の評価が低いことは、改善すべき点だ。</li> <li>・「7.語学教育・留学・国際交流関連」からは、「授業役たし度」の評価が低い。授業内で外国語を使う機会は低いが、情報収集等で積極的に使用する頻度を高め、スキルアップを図りたい。</li> </ul> |
|------------|--|

## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（芸術学部）

| I. 教学マネジメントに関する点検  |                 |  |                         |  |                               |
|--|-----------------|--|-------------------------|--|-------------------------------|
| I - (1) 本自己点検を部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？   |                 |  |                         |  |                               |
| ○  | はい →            | 会議体名称  | 芸術学部運営会議<br>芸術学部教授会     | 議事録有無  | ○                             |
|  | いいえ             |  |                         |  |                               |
| I - (2) 現状の学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、2023年度中に確認・検証をどの程度（5段階）行いましたか？  |                 |  |                         |  |                               |
| 2:確認・検証し、十分な整合性を確認できた  |                 | 実施会議体名称  | 芸術学部運営会議<br>芸術学部教授会     | 議事録有無  | ○                             |
| I - (3) 確認・検証の結果、2023年度中に変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。  |                 |  |                         |  |                               |
| 確認・検証の結果変更はなかった。   |                 |  |                         |  |                               |
| I - (4) 現状の学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。   |                 |  |                         |  |                               |
| カリキュラムマトリクスによりDPとの相関が明示され、整合性が確認できるが、各授業シラバスの再確認を充実させ、改善点や課題がないか確認する。  |                 |  |                         |  |                               |
| I - (5) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、教員間の理解はどの程度（5段階）でしたか？  |                 |  |                         |  |                               |
| 3:一定の理解・共有がされているが課題がある   |                 | 回答理由→ 各専攻間での連携、理解、共有が限定的であるため。全体での確認、共有を行う工夫と時間を必要。    |                         |  |                               |
| I - (6) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度（5段階）されていましたか？  |                 |  |                         |  |                               |
| 4:説明をしたが十分でなく、改善する必要がある  |                 | 回答理由→ 全体ガイダンスで説明されているが、各専攻及び共通での説明にばらつきがあるため、改善の余地がある。 |                         |  |                               |
| I - (7) 学部のDP,CP,APに基づいた教育のマネジメントを実行するにあたり、困っている点があれば、具体的に記載してください。  |                 |  |                         |  |                               |
| 教育マネジメントをより良く実行するにあたっては、各専攻、学部共通教育間、学部全体でのより充実した連携、理解、共有が必要である。また、教育目標、各DP、CP、AP、授業の目的、到達目標GPA、履修状況、各結果など、教学において重要な点を確認する体制をより整える事が必要であり、実施においてまず、オリエンテーションガイダンス時や授業開始時での学生への説明方法の改善などが最初に検討できる。この改善点をはじめ、その他にも様々な検討と対応が考えられるが、それらを可能にするにあたり、検討、構築、実施の体制を整備する時間を見つけ確保する事が必要である。  |                 |  |                         |  |                               |
| I - (8) 学部の同マネジメントにおいて意義がある、または効果的な取組があれば、具体的に記載してください。（例：学部内FD、教員間コミュニケーションツールの活用など）  |                 |  |                         |  |                               |
| 全体ガイダンス説明を各専攻が順番に受け持つことにより、学生へ伝えるべき重要な要素、内容、ポイントの理解が以前に比べ促進、改善されている。専攻内での説明時（学生、非常勤講師、助手含む）においても効果的に機能している。さらに4年次ゼミなど学部共通での科目においても、各専攻・教員が順番に全体説明や全体での成績管理に関わることで、より学部全体において、共通教育での取り組み、ルーブリックについての理解と検討が進められた。<br>共通教育と各専攻での管理において、共有ドライブでの情報共有、確認のシステムが確立され改善の効果がみられる。<br>学部内でのFD活動、学部運営会議、学部教授会、学部教員会議での情報共有。                       |                 |  |                         |  |                               |
| II. DPにもとづいた学修成果の把握に関する点検  |                 |  |                         |  |                               |
| ※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、 <u>アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法で、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を行うこと</u> を指します。学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。   |                 |  |                         |  |                               |
| II - (1) 学修成果に関する以下の指標のうち、2023年度中の学部の学修成果の把握・検証において <b>実際に活用・参照したもの</b> について、全て○を選択してください。   |                 |  |                         |  |                               |
| ○  | 卒業制作・論文ルーブリック   | ○  | GPA                     | ○  | 成績分布                          |
| ○  | GPS-Academic    | ○  | 定期試験                    | ○  | 外部検定試験（ ）                     |
| ○  | 実就職率            | ○  | 進級率（留年率）                | ○  | 標準修業年限卒業率                     |
| ○  | 企業アンケート（学生就職先等） | ○  | 上記以外 → （ 共通教育必修科目履修状況 ） | ○  | 学生アンケート分析（DP成長実感、満足度等）        |
|  |                 |  |                         |  | ○ 進路決定率                       |
|  |                 |  |                         |  | ○ 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）結果     |
| II - (2) 卒業制作・論文ルーブリックの各項目は、学部のどのDPを測定しているものか、関連が明確になっていますか？   |                 |  |                         |  |                               |
| ○  | はい →            | 各項目とDPとの関連を具体的に記載してください。 →                             |                         | 各ルーブリックの項目は、学部運営会議においても確認し、下記のDPと関連し明確になっている。<br>・「技法と仕上げ」は、DP3「技術と表現」。<br>・「作品理念」は、DP2「創造的思考と考察」、DP3「技術と表現」。<br>・「口頭発表」は、DP4「他者理解と協働」、DP5「社会への関心と行動」。<br>・「展示手法」は、DP4「他者理解と協働」、DP5「社会への関心と行動」。<br>・「専攻の独自性」は、DP1「知識と理解」、DP5「社会への関心と行動」。 |                               |
|  | いいえ →           | 各項目とDPの関連を明確にするために、2024年度中の改善計画について記載してください。 →         |                         |  |                               |
| II - (3) 卒業制作・論文ルーブリックを除き、(1) で選択した項目を活用し学修成果の把握・検証をどのように行ったかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。  |                 |  |                         |  |                               |
| 「GPS-Academic」、「学生アンケート分析（DP成長実感、満足度等）」、「卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）」結果については、各専攻にて確認、分析を行い、学部運営会議、教授会にて全体で各専攻の状況を共有し、学習成果の把握と検証を行った。<br>「GPA」、「定期試験」、「進級率」、「共通教育必修科目履修状況」については、各クォーター、年度末において学部運営会議、教授会で詳細に確認し、都度確認と対応を繰り返し行い学習成果の把握と向上に繋げている。<br>「実就職率」、「企業アンケート（学生就職先等）」、「進路決定率」については、各タイミング、年度末において状況の確認を行い、より良い効果が出るように情報共有の促進、改善を行っている。 |                 |  |                         |  |                               |
| II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく説明されていますか？   |                 |  |                         |  |                               |
| ○  | はい →            | 説明方法を選択してください（複数可）                                     |                         | ○  | 大学HP                          |
|  |                 |  |                         | ○  | 学習のてびき2023（当該ページを記載してください。） → |
|  |                 |  |                         | ○  | p. 110,111                    |
|  | いいえ             | 学部独自資料（当該資料を別添してください。）                                 |                         |  |                               |
| II - (5) 学修成果の把握・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。  |                 |  |                         |  |                               |
| 1年次クラスにおける必修科目履修状況、出席状況の確認について把握し、履修指導や面談の時期、状況把握の方法を改善した。また4年ゼミ制の仕組みについて新カリキュラムとの関係から一部変更を行なった。また2024年度以降の改善として、卒業制作展での取り組みや展示方法についての検討、3年次授業における共通プログラムの取り組みについて継続した検討を進めている。  |                 |  |                         |  |                               |

### Ⅲ. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

### Ⅳ. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

IV-（1）各学部の学生支援体制や内容の適切性について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？

|      | 会議体名称   | 学部教授会、運営会議 | 議事録有無  | ○ |
|------|---|------------|--|---|
| はい → | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |            | 学生個別面談、学籍異動書類、配慮申請書類、ピアサポート実施状況ヒアリング、内容と状況を把握  |   |
|      | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |            | 学部共通、各専攻での学生対応の認識、情報共有の機会を増やすため、学習状況や個別の状況について、共有の機会と時間増を会議の中においても重点的に実施した。さらなる共有を工夫したい。<br>また、学生支援の一環として、授業以外に学生が自身の研究を発表・探究をするにあたり、発表の場所・機会構築や、支援する方法の検討と実施。 |   |
| いいえ  |   |            |  |   |

IV-（2）各学部の学生支援体制や内容について、学部の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

多様性を重んじ各学生それぞれの状況に合わせた、柔軟な取り組みにより個別対応で見ながらサポートしていく体制になっており一定の効果があった。  
1年生は共通教育担当の教員がクラス担任として学生の相談に応じる体制を取っている。2年生以上の専攻においては、各専攻教員がクラス担任として学生の相談に応じる体制を取っている。学生の相談があれば面談を実施しているが、学生の状況によってはこちらから適切なタイミングで声がけし個別面談を実施している。4年次はゼミ制を取っており専攻以外の個別各教員においても必要により対応をおこなっている。また各専攻においては必要に応じて、教員と助手がサポートしつつ学生支援が円滑に行えるように配慮している。また、進級要件科目出席状況についてグループスプレッドシートで学部内共有し、担当外の科目の状況も把握。欠席が続く学生には担任より指導。改善されない場合は再度面談を実施し、学生の状況把握に努めている。状況に応じて教務チーム・学生支援チームと共有し対応を行っている。また、個別相談内容によっては、適切な部署と共同し対応している。

IV-（3）各学部の学生支援体制や内容について、今後改善や検討が必要な点があれば、具体的に記載してください。

各専攻での学生支援体制については、学生個別に柔軟に対応を進めサポートする体制があるが、一定の範囲を超えた状況や検討を求められる場合、留学生の日本語能力の問題などその他様々な問題や対応への悩みについて、どのように進めていくか対応の進め方、相談について、学生支援チーム、教務チームなどと、より効果的に連携する協力体制の構築。

### V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1）2023年度キャンパスライフアンケート結果の検証時に「自学部で改善が必要と思われる点」に記載した内容について、2023年度中に実際に改善した点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）を具体的に記載してください。

キャンパスライフアンケート回収率を上げる事を目標に、全体数値を示した上で各専攻において確認、声がけを実施した。教育目標とDPIについてより関連がわかるように意識し、スライドを用いてガイダンスにおいて説明を実施し改善を試みた。以上の項目については、今後も継続しながら説明の工夫、機会増を検討していきたい。全体での説明だけではなく、各専攻、科目での説明やその他の工夫が必要である。また、「就職につながる学修や資格取得」については、キャリアからの情報を各専攻においても教員から案内を再度するなどの対応を実施した。またこれに関連する検討として、学部内において共通で取り組む仕組みや方法を検討しており、今後の改善に繋げていく予定である。

V-（2）2023年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

| 確認・検証会議体名称 | 芸術学部運営会議、芸術学部教授会 | 議事録有無 | ○ |
|------------|------------------|-------|---|
|------------|------------------|-------|---|

V-（3）2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果の自由記述以外のデータから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。

|                 |   |
|-----------------|---|
| 評価できる点、更に伸ばしたい点 | 卒業時アンケート：<br>DP成長実感「考えを表現する力」「多様な人とコミュニケーションする力」が伸びており評価できる、制作した作品の説明やプレゼンテーション、講評会、学部共通教育の取り組みについて継続したい。<br>GPS-Aアンケート：<br>「科目間の関連やカリキュラムの全体像を理解できている」、「授業レベル」、「課題負荷」については一定の結果が見え問題がないので継続したい。満足度、イメージ変化のうち「授業内容満足度」、「教員満足度」においては、一定のレベルで満足度があるので、継続し今後のカリキュラムでも継続したい。  |
| 改善や検討を要する点      | 卒業時アンケート：<br>卒業時アンケートについては、各専攻の回答率にばらつきがあり今後回答率の向上に向け、早めの対応を心がけるなど改善を行う必要がある。<br>DP成長実感「論理的思考」「他者と協働」「社会と他者に貢献」「期待していた成長や実感」について、作品を社会へ提示(展示)をする事により社会へ貢献する力や、他者と協働する力も身につけていると思うが、どのように繋がっているかと言う理解ができていないので、その点を詳しく授業時において補足説明を実施する事で改善できる可能性がある。論理的な思考については、今後25年度カリキュラムでも対応を検討していきたい。満足度「語学教育・語学支援」、「所属学部を知人や後輩に薦めるか」の点についても今後のカリキュラムで検討が必要。<br>GPS-Aアンケート<br>「授業内容の情報」、「教育目標」、「必要な学び」については、ガイダンス時での説明の機会増、各授業での説明を丁寧に実施する事が改善点として検討できる。成長実感、薦めたいかについては、各専攻においてばらつきがある。成長実感が良い専攻でも他の箇所と連動していない箇所もある。満足度においても授業満足度は高いが、カリキュラム満足度で検討が必要など、より詳細な分析が必要な部分もあり検討が必要である。「就職・進路支援」については学部内において共通で取り組む仕組みや方法を検討しており、今後の改善に繋げていきたい。 |

V-（4）2023年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。

|                 |  |
|-----------------|--|
| 評価できる点、更に伸ばしたい点 | 評価できる点として、作品制作に関する点が多くあげられており特に、「作りたい作品を制作できる、枠にとらわれない、やりたい事に集中できる、自由に好きな事ができる、他大学に比べ多様性に優れ、国際交流できる、刺激にあふれている」など制作環境や授業、教育環境に関し良い意見が多く、これらの点を継続できるようにさらなる環境の改善を行いたい。<br>また、制作と同時に、教員サポートに関しても良い意見が見られ、「親身になってくれる教員がいる、具体的な方法がわからない時も教員に相談すれば、一緒に考えて試行錯誤してくれる、とことんサポートしてくれる環境がある、いろんな人と協力できる、いい先生がいる」など、教員が学生の自由な発想と制作をサポートしている事がアンケートの結果からも伝わり、さらに伸ばしていきたい点であり、さらには芸術教育においてまた学部が目指す教育目標につながっていると再認識できる点でもあり、さらに自由な制作や研究が行える環境を整えていきたい。 |
| 改善や検討を要する点      | 教育内容についての改善点より、教育環境である設備についての改善点のコメント記述が多く、教育環境と教育内容は一部繋がる点でもあり、環境面での整備も重要であることが再認識できた。また少数ではあったが、コミュニケーションについてや、1年次での専門の学びと、2年次での専攻専門での内容について、改善が必要な箇所はより明確に実施するなどの検討が必要である。  |

2024年度実施 部局別自己点検報告書（デザイン学部）

I. 教学マネジメントに関する点検

I-（1）本自己点検を部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

|   |      |       |            |       |   |
|---|------|-------|------------|-------|---|
| ○ | はい → | 会議体名称 | デザイン学部運営会議 | 議事録有無 | × |
|   | いいえ  |       |            |       |   |

I-（2）現状の学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、2023年度中に確認・検証をどの程度（5段階）行いましたか？

|                                |         |            |       |   |
|--------------------------------|---------|------------|-------|---|
| 3:確認・検証し、一定の適合性を確認できたが改善の余地がある | 実施会議体名称 | デザイン学部運営会議 | 議事録有無 | × |
|--------------------------------|---------|------------|-------|---|

I-（3）確認・検証の結果、2023年度中に変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

23年度で旧カリキュラムが完了する。24年度からは新しいDPIになる。また「卒業制作・卒業論文」のルーブリックに変わる策として、作品の進捗状況を保存しながら制作の進行と成長し、盗作の防止にも役立てる。保存した情報は3年間管理を行い、卒業後に何か問題が発覚した場合は遡って検証する事も可能である。各学科・コースの状況と課題を把握するため、状況を把握するアンケートを実施し、24年度7月に学部FDとして情報を共有する機会を設ける予定である。

I-（4）現状の学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。

25年度より、新しいカリキュラムが始まる。新授業に対し、新たなDP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の検討が必要になる。

I-（5）学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、教員間の理解はどの程度（5段階）でしたか？

|                 |       |           |
|-----------------|-------|-----------|
| 2:十分に理解・共有されている | 回答理由→ | 学部教授会での共有 |
|-----------------|-------|-----------|

I-（6）学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、学生への説明はどの程度（5段階）されていましたか？

|                                |       |   |
|--------------------------------|-------|---|
| 3:説明をし、学生の一定の理解を確認できたが改善の余地がある | 回答理由→ | 前期、後期でのオリエンテーション時での説明、面談等を実施。ただし、一部の学科では改善の余地がある。 |
|--------------------------------|-------|---|

I-（7）学部のDP,CP,APIに基づいた教育のマネジメントを実行するにあたり、困っている点があれば、具体的に記載してください。

学科が多く、統一した教育のマネジメントに苦労を要する。

I-（8）学部の同マネジメントにおいて意義がある、または効果的な取組があれば、具体的に記載してください。（例：学部内FD、教員間コミュニケーションツールの活用など）

教育のマネジメントについて学部FDを予定している。このような機会を設けて教員の理解の促進を行う予定である。

II. DPにもとづいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法で、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を行うことを指します。学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II-（1）学修成果に関する以下の指標のうち、2023年度中の学部の学修成果の把握・検証において**実際に活用・参照したもの**について、全て○を選択してください。

|   |                 |   |          |     |           |   |                         |
|---|-----------------|---|----------|-----|-----------|---|-------------------------|
| ○ | 卒業制作・論文ルーブリック   | ○ | GPA      |     | 成績分布      | ○ | 学生アンケート分析（DP成長実感、満足度等）  |
| ○ | GPS-Academic    |   | 定期試験     |     | 外部検定試験（ ） | ○ | 進路決定率                   |
| ○ | 実就職率            | ○ | 進級率（留年率） |     | 標準修業年限卒業率 | ○ | 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）結果 |
| ○ | 企業アンケート（学生就職先等） |   | 上記以外 →   | （ ） |           |   |                         |

II-（2）卒業制作・論文ルーブリックの各項目は、学部どのDPを測定しているものか、関連が明確になっていますか？

|   |       |   |   |
|---|-------|---|---|
| ○ | はい →  | 各項目とDPとの関連を具体的に記載してください。→                     | デザイン学部DP・・・DP1「デザインに関する基本的な知識と理解がある」、DP2「デザインシンキングを用いて様々な課題を見つけ出し、それらをデザインによって解決することができる」、DP3「他者に了解可能なデザインを表現する技術を身につけている」、DP4「多様な他者との違いを認め、協働して課題解決に取り組むことができる」、DP5「より良い社会を創る意欲を持ち、学びを応用して社会の課題解決に自ら取り組むことができる」<br><br>-それぞれの学科において以下の観点から各DP達成度を評価している。<br>【イラスト】<br>DP1・・・表現力、作品コンセプト、プレゼンテーション<br>DP2・・・表現力、作品コンセプト、プレゼンテーション、展示計画<br>DP3・・・プレゼンテーション、展示計画<br>DP4・・・展示計画<br>DP5・・・表現力<br>【VD】<br>DP1・・・表現スキルと仕上げ、作品コンセプト、プレゼンテーション<br>DP2・・・表現スキルと仕上げ、作品コンセプト、プレゼンテーション、展示手法<br>DP3・・・プレゼンテーション、展示手法<br>DP4・・・展示手法<br>DP5・・・表現スキルと仕上げ<br>【PD】<br>DP1・・・企画力、アイデア発想力、デザイン展開力・完成力<br>DP2・・・企画力、アイデア発想力、デザイン展開力・完成力、プレゼンテーション力<br>DP3・・・企画力、デザイン展開力・完成力、プレゼンテーション力<br>DP4・・・企画力、プレゼンテーション力<br>DP5・・・企画力<br>【建築】<br>DP1・・・作品／論文（コンセプトの提示）、プレゼンテーション<br>DP2・・・作品／論文（コンセプトの提示）、プレゼンテーション<br>DP3・・・作品／論文（コンセプトの提示）、プレゼンテーション<br>DP4・・・作品／論文（コンセプトの提示） |
|   | いいえ → | 各項目とDPの関連を明確にするために、2024年度中の改善計画について記載してください。→ |   |

II-（3）卒業制作・論文ルーブリックを除き、（1）で選択した項目を活用し学修成果の把握・検証をどのように行ったかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

GPS-Academic：全学教員会議、学部運営会議での報告と改善の指示。実就職率：全学教員会議での報告と改善の指示。企業アンケート（学生就職先等）：全学教員会議、学部運営会議での報告と改善の指示。GPA：学部運営会議及びオリエンテーション時の個人面談で改善の指示。進級率（留年率）：全学教員会議での報告と改善の指示。学生アンケート分析（DP成長実感、満足度等）：全学教員会議での報告と改善の指示。進路決定率：全学教員会議での報告と改善の指示。卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）結果：全学教員会議、学部運営会議での報告と改善の指示。

II-（4）DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく説明されていますか？

|   |      |                    |   |                        |   |                              |    |       |
|---|------|--------------------|---|------------------------|---|------------------------------|----|-------|
| ○ | はい → | 説明方法を選択してください（複数可） | ○ | 大学HP                   | ○ | 学習のてびき2023（当該ページに記載してください。）→ | p. | 78-79 |
|   | いいえ  |                    |   | 学部独自資料（当該資料を別添してください。） |   |                              |    |       |

II-（5）学修成果の把握・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。

特になし

III. APIに基づいた学生募集・入学選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学選抜の公正な実施に関する点検

IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

IV-（1）各学部の学生支援体制や内容の適切性について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？

|   |      |       |  |       |   |
|---|------|-------|--|-------|---|
| ○ | はい → | 会議体名称 | 学生支援チームによる留学生支援に関するFD研修、意見交換。<br>メールによる各コースのピアサポート状況の把握とその確認。<br>デザイン学部運営会議での情報共有。 | 議事録有無 | × |
|   | いいえ  |       |  |       |   |

確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  
学生支援チーム（学生生活委員関連）から提供される各種データおよび各コースのピアサポートの現状をもとに確認と検討を行った。  
確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。  
2023年2月29日にFD研修会として「本学の留学生対応の現状 学生支援チームによる講演」を行い、学部として更に留学生へ丁寧な対応が必要とすることになりました。そこで、各学科・コースおよび各教員らの留学生への対応に反映することにしました。

IV-（2）各学部の学生支援体制や内容について、学部の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

学部の学生数が多いため、各学科、コースごとによる学生状況の把握、また学生個々への丁寧な対応を行っている。

IV-（3）各学部の学生支援体制や内容について、今後改善や検討が必要な点があれば、具体的に記載してください。

次年度以降は各種資料や会議での意見から改善すべき点の共有を強化し、学生支援のための検証や取組みへ繋げていきたい。また、各種学生アンケートに基づく学生の要望（施設の充実や学生サポートなど）への対応の強化についても検討していきたい。

| V. 学生アンケートに基づく点検   |            |       |   |
|--|------------|-------|---|
| V-（1）2023年度キャンパスライフアンケート結果の検証時に「自学部で改善が必要と思われる点」に記載した内容について、2023年度中に実際に改善した点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）を具体的に記載してください。   |            |       |   |
| <p>・「多様な人とのコミュニケーション力」と「理論的な思考と判断力」はデザインに不可欠な能力にも関わらず学生の実感値が低い。この点を改善するために学科の教員を共通教員へ移動しデザイン共通科目（デザイン共通講義と学科を越えたプロジェクト演習）の強化を行う予定。</p> <p>・卒業後の進路については、あまり具体的に考えられていない。この点について、テストモデルとしてビジュアルデザイン学科で3年次1Qの集中授業として「働く」についての3日間連続講義（熊野先生と森原が担当）を行った。講義とグループワークを通じて働くことについて具体的に考える機会を作った。同じ日にキャリア支援の進路調査アンケートも実施しており、昨年度との回答の差（内容の具体性や回答率など）を検証していただくようキャリア支援チームに依頼を行った。</p> <p>・22年度のデザイン学部のアンケート回答率は「51.2%」だったので、23年度は「60%」を目指した。しかしながら、結果的には「52.6%」であった。この結果を学部運営会議および学部教授会で共有し、後輩や今後のためにも卒業アンケートへの回答の重要性を学生に伝えるように周知を行った。</p> |            |       |   |
| V-（2）2023年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）  |            |       |   |
| 確認・検証会議体名称   | デザイン学部運営会議 | 議事録有無 | × |
| V-（3）2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果の自由記述 <b>以外の</b> データから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。   |            |       |   |
| GPS-Aアンケート結果【評価できる点、更に伸ばしたい点】と【改善や検討を要する点】   | 学科別に別紙参照   |       |   |
| 卒業時アンケート結果の自由記述以外【評価できる点、更に伸ばしたい点】と【改善や検討を要する点】  | 学科別に別紙参照   |       |   |
| V-（4）2023年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。   |            |       |   |
| 【評価できる点、更に伸ばしたい点】と【改善や検討を要する点】   | 学科別に別紙参照   |       |   |

## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（マンガ学部）

| I. 教学マネジメントに関する点検  |                 |   |  |  |
|--|-----------------|---|--|--|
| I - (1) 本自己点検を部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？   |                 |   |  |  |
| ○  | はい →            | 会議体名称   | 学部運営会議   | 議事録有無 ×  |
|  | いいえ             |   |  |  |
| I - (2) 現状の学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、2023年度中に確認・検証をどの程度（5段階）行いましたか？  |                 |   |  |  |
| 3: 確認・検証し、一定の適合性を確認できたが改善の余地がある  |                 | 実施会議体名称   | 学部運営会議   | 議事録有無 ×  |
| I - (3) 確認・検証の結果、2023年度中に変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。  |                 |   |  |  |
| 検証した結果、次の科目について、DPや授業の実態と齟齬が無いよう「授業の目的、到達目標」を修正した。<br>マンガ学科科目「卒業研究実習1～3」「卒業展示」「アニメーション3DCG演習3、4」「絵本技法1、2」（旧カリ）<br>アニメーション学科科目「卒業研究実習1～3」「卒業展示」   |                 |   |  |  |
| I - (4) 現状の学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。   |                 |   |  |  |
| 25年度からは新カリキュラムがスタートするので、DPと到達目標との整合性については十分に検討し「授業の目的、到達目標」を作成していく必要があるが、シラバスにおける到達目標作成のための基準が作成者によって異なりがちである。できるだけ明確な基準を設けたうえで、シラバスの骨子に当たる箇所を策定する必要がある。<br>また、24年度以前のカリキュラムは、25年度以降の新カリキュラムとの同時開講となる科目が多く発生するが、新旧カリキュラム間でのDPと到達目標の整合性に齟齬が生じない様に調整できるか課題である。 |                 |   |  |  |
| I - (5) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、教員間の理解はどの程度（5段階）でしたか？  |                 |   |  |  |
| 3: 一定の理解・共有がされているが課題がある  |                 | 回答理由→   | 教務主任、学科長、コースの教務委員は、DPと到達目標の整合性を意識した上でシラバスの確認作業をしている。ただし実際に授業を担当する非常勤講師を含めた教員に対して、その意義を共有する場が十分ではなく、理解度は教員によりまちまちである。   |  |
| I - (6) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度（5段階）されていましたか？  |                 |   |  |  |
| 3: 説明をし、学生の一定の理解を確認できたが改善の余地がある  |                 | 回答理由→   | 「学習のてびき」に記載されていると共に、DP、CP、「授業の目的、到達目標」についてはセイカポータルに掲載されている各授業のシラバスに明記されている。春と秋に実施しているオリエンテーション時には、「学習のてびき」に目を通す事と、履修登録時にしっかりとシラバスを確認するよう学生に指導している。<br>GPSAアンケート分析によると、マンガ学科、アニメーション学科共に8割以上の学生が学部・学科の教育目標を、おおよそ知っているという回答であり、ある程度の周知は出来ていると判断できるが、「非常に当てはまる」と回答する学生の割合が増えるよう、より丁寧に説明をしていきたい。 |  |
| I - (7) 学部のDP,CP,APIに基づいた教育のマネジメントを実行するにあたり、困っている点があれば、具体的に記載してください。   |                 |   |  |  |
| PDCAサイクルを機能させ教育マネジメントを実行していく点から見ると、まず全学部教員でPLANを共有・理解した上で進める事が必要だが、PLANの共有という出発点に立つまでも、未だ十分ではないと感じられる。学部教員会議や教授会では、議案や報告事項が非常に多く、教学マネジメントに関して議論する時間を作る事が難しい。   |                 |   |  |  |
| I - (8) 学部の同マネジメントにおいて意義がある、または効果的な取組があれば、具体的に記載してください。（例：学部内FD、教員間コミュニケーションツールの活用など）  |                 |   |  |  |
| 今のところ特に無いが、今後、学部内FD等を通して、まずは教員が教育目標やDP、CP等、教学上の理解を深めた上で、検証できる場を設けていきたい。  |                 |   |  |  |
| II. DPIにもとづいた学修成果の把握に関する点検   |                 |   |  |  |
| ※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法で、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を行うことを指します。学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。  |                 |   |  |  |
| II - (1) 学修成果に関する以下の指標のうち、2023年度中の学部の学修成果の把握・検証において <b>実際に活用・参照したもの</b> について、全て○を選択してください。   |                 |   |  |  |
| ○  | 卒業制作・論文ルーブリック   | GPA   | 成績分布   | 学生アンケート分析（DP成長実感、満足度等）   |
|  | GPS-Academic    | 定期試験  | 外部検定試験（                      ）   | 進路決定率  |
|  | 実就職率            | 進級率（留年率）  | 標準修業年限卒業率  | 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）結果  |
|  | 企業アンケート（学生就職先等） | ○ 上記以外 →                      （ 学修ポートフォリオ等                      ） |  |  |
| II - (2) 卒業制作・論文ルーブリックの各項目は、学部のどのDPを測定しているものか、関連が明確になっていますか？   |                 |   |  |  |
| ○  | はい →            | 各項目とDPとの関連を具体的に記載してください。→   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>【カートゥーン】</li> <li>・研究課題の設定：DP1,2</li> <li>・科学的研究方法の選択と分析：DP1,2,3</li> <li>・関連研究の活用：DP1,2,3</li> <li>・論証と帰納：DP1</li> <li>【ストーリーマンガ】</li> <li>・テーマ、伝えたい面白さの評価：DP1,2</li> <li>・マンガの作画・作劇の技術：DP1,2,3</li> <li>・知識と研究：DP1,2,3</li> <li>・総合的な作品評価（マンガ力の評価）：DP1,2,3</li> <li>【新世代マンガ】</li> <li>・ネーム力：DP1,2</li> <li>・画力：DP3</li> <li>・総合完成度：DP1,2,3</li> <li>【キャラクターデザイン】</li> <li>・卒業制作プレゼンテーション：DP1,2,3</li> <li>・卒業展示：DP1,2,3</li> <li>【アニメーション】</li> <li>・企画力：DP1,2</li> <li>・伝達力：DP1,2,3</li> <li>・表現力：DP1,2,3</li> <li>・技術力：DP1,2,3</li> </ul> |
|  | いいえ →           | 各項目とDPの関連を明確にするために、2024年度中の改善計画について記載してください。→                     |  |  |

II - (3) 卒業制作・論文ループブックを除き、(1) で選択した項目を活用し学修成果の把握・検証をどのように行ったかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

II - (1) 上記以外  
 ・学修ポートフォリオにおいて学修度を可視化するレーダーチャートにより、ディプロマポリシーに結びついた力をどれだけ学修身につけたかを把握・検証している。  
 ・3年次科目において実践的教育に重きを置き、課題ではあるが完成された作品制作を行っている。その作品完成時には授業内にて合評を行い各作品の講評や技術知識の習得等を確認する。  
 ・アニメーション学科において、卒業制作はループブック評価だけでなく、制作の経過を確認する中間合評や完パケを上映確認する最終合評を実施している。この2度の合評は履修学生全員に加えゼミ担当の教員全員が参加し、各作品における問題点の指摘や講評を行う事で学習成果の把握検証を行っている。さらに一部実作系科目においては学科内課題提出にとどまらず、完成した課題を外部コンペなどへ応募することを義務づけており、学内評価にとどまらず、社会的客観的評価をはかる指標にもしている。ちなみに応募作品は過去何度も入賞している。

II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく説明されていますか？

|                       |      |                    |                       |                        |                       |                               |    |         |
|-----------------------|------|--------------------|-----------------------|------------------------|-----------------------|-------------------------------|----|---------|
| <input type="radio"/> | はい → | 説明方法を選択してください（複数可） | <input type="radio"/> | 大学HP                   | <input type="radio"/> | 学習のてびき2023（当該ページを記載してください。） → | p. | 158,159 |
|                       |      |                    |                       | 学部独自資料（当該資料を別添してください。） |                       |                               |    |         |
|                       | いいえ  |                    |                       |                        |                       |                               |    |         |

II - (5) 学修成果の把握・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。

DPと到達目標の整合性を精査した上で学修ポートフォリオの信頼性を上げ、学修成果の把握と検証のためにさらなる活用を進めたい。  
 また、24年度においては評価を学科内に留めることなく社会的客観的評価をはかるためにさらなる外部コンペへの応募等を推奨していきたい。

**III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検**

**IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検**

IV - (1) 各学部の学生支援体制や内容の適切性について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？

|                       |      |   |        |   |  |
|-----------------------|------|---|--------|---|--|
| <input type="radio"/> | はい → | 会議体名称   | 学部運営会議 | 議事録有無   |  |
|                       |      | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |        | 学生生活委員会でもとめ報告がされている。  |  |
|                       |      | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |        | コースごとに1・2年生全員に対して全専任・特任の中から担当教員を配置し、学生にそれを告知するとともに、問題を抱えた学生を中心に面談の機会を設けた。また、コースによるが、slack等を活用した連絡方法の簡便さを図るなどの工夫がなされている。 |  |
|                       | いいえ  |   |        |   |  |

IV - (2) 各学部の学生支援体制や内容について、学部の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

特になし

IV - (3) 各学部の学生支援体制や内容について、今後改善や検討が必要な点があれば、具体的に記載してください。

学生支援体制という点から見た時に、支援を求める学生の人数に対して教員数が足りていない。各コースに助手を配置しており、教員と学生をつなげる一定の役割を果たしているが、助手の仕事の範囲は限られている。  
 また、学生が相談を求めるのは特定の教員に集中する傾向があり、その教員の負担は大きくなっている。教員や助手ではカバーしきれない事も多く、学生支援体制に力を注ぐのであれば、何らかの体制作りを検討する必要があると思われる。

**V. 学生アンケートに基づく点検**

V - (1) 2023年度キャンパスライフアンケート結果の検証時に「自学部で改善が必要と思われる点」に記載した内容について、2023年度中に実際に改善した点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）を具体的に記載してください。

【マンガ学科（新世代マンガコース）】  
 1) 課題が多いことが問題となったため、シラバスの策定に際し以下の修正をおこなった。  
 ◆2回生の必修において月曜と火曜の授業内容を別々のものから連続したものに変更し、課題について授業時間内で収まるよう調整した。  
 ◆課題内容を見直し、効果の薄かったもの、時間がかかりすぎるものを省いて再構成した。  
 2) 「多様な人とのコミュニケーションする力」を身につけるため、グループワークを大幅に増やした。

【アニメーション学科】  
 まず25年度以降における新たなカリキュラムにおいて学科専門科目群を充実させ学生達の専門的な教育やキャリア形成についての学びの場を拡充させる計画である。また多様な人とのコミュニケーション力や他者との共同力などについては科内科目において共同研究の場やグループ制作に携われる機会を増やし、コミュニケーション、協調力を培う場を提供する予定である。

【25年度以降新カリキュラム】  
 25年度カリキュラムについて、DP4（他者理解と協働）とDP5（他者理解と協働）にかかわる授業の目的と内容をしっかりと検討・確認し実施していきたい。

V - (2) 2023年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

|            |       |       |                       |
|------------|-------|-------|-----------------------|
| 確認・検証会議体名称 | 学部教授会 | 議事録有無 | <input type="radio"/> |
|------------|-------|-------|-----------------------|

V - (3) 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果の自由記述**以外**のデータから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。

|                 |   |
|-----------------|---|
| 評価できる点、更に伸ばしたい点 | 「成長実感」において実感している割合が高く、また「入学してよかったと思う」においては、そう思うという回答が多かった点は評価できる。今後、さらに学生の満足度を上げて行きたい。<br>「教員満足度」において、特にアニメーション学科では満足していないという回答が0であった事は大いに評価できる。今後も継続できる様、努力を続けていきたい。   |
| 改善や検討を要する点      | 【マンガ学科】<br>以下の各能力の向上に授業が役に立ったか、の「コミュニケーションスキル」について、目立って悪い結果ではないが、授業の中で、例えば卒業制作展等でグループワークが必要な時に、はみ出してしまう学生が出てきたり問題が生じる事がある。マンガ制作においてコミュニケーションスキルは非常に重要であるため、この部分は今後、より一層強化していきたい。<br>【アニメーション学科】<br>「相談できる教員がいる」という設問ではあてはまらないという回答が他学科に比較して多かった。学生が抱える進路やその他の悩み事に対して、気軽に教員に相談しやすい環境を構築できるよう、日頃から学生とのコミュニケーションを密にするなど、改善が必要と考える。 |

V - (4) 2023年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。

|                 |  |
|-----------------|--|
| 評価できる点、更に伸ばしたい点 | 教員の対応が丁寧である点や、自由に学ぶ環境があるという回答が複数あった。この点はさらに伸ばしていきたい。               |
| 改善や検討を要する点      | コロナ禍での授業形態に対する不満や、学部以外の事での不満が多かったが、学部の教学に関わる部分で、特に目立った点は無いように思われる。 |



## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（人文学部）

### V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1） 2023年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述以外のデータから自部門の教育内容を中心に振り返り、自己評価結果について記載してください。

卒業の時点において「カリキュラムに関する満足度」「教員に対する満足度」が非常に高い数値であることは、学部教員の尽力の結果であると評価できる。それらの数値に比較して「就職支援」や「キャンパス環境」「学生窓口対応」に関してはネガティブな回答があり、全学的な改善が必要であろう。

V-（2） 2023年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の教育内容を中心に振り返り、自己評価結果について記載してください。

学生一人一人を大切にしている組織風土や、専門教育、教員との距離の近さなど、人文学部が培ってきた伝統が今も生きていることがわかる。この点は高く評価できる。一方で、施設（教室、フリースペースの不足、学食）等の不満が多く語られている。また遠隔授業の実施に関するクオリティのばらつきなどの指摘もあり、こちらも今後全学的な検討が必要であろう。

## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（ポピュラーカルチャー学部）

### V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1） 2023年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述以外のデータから自部門の教育内容を中心に振り返り、自己評価結果について記載してください。

どの指標も経年的には右上がりの変化（高評価）に推移している。中でも、「他者と共同する力」と「社会と他者に貢献する力」が加速的に増加した。一方、国際交流・語学教育についての満足度が低い。交換留学先などで、音楽やファッションの学べる受け入れ先が少ないことが一員だと考えられる。進路支援に対する不満が高いのに対して、将来に必要な学びが得られたと回答した学生は圧倒的に多いので、大学の就職支援と学生の希望する進路にミスマッチがあると考えられる

V-（2） 2023年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の教育内容を中心に振り返り、自己評価結果について記載してください。

多様性や他者理解についての意識が向上してきたという印象がある。学部の専門的な学びと、他学部の学生との横断的な学びのバランスが適切だったのではないだろうか。大学に対する愛着や学生間の交流については、コロナ禍という現実があり、23年度卒業生たちはこれまでとは違う大学生活を送ったことがうかがえる。人を選ぶ学部という記述も目に付くが、限られたファカルティで音楽やファッションの全領域をカバーできるわけではないこと、定員割れをおこしてアドミッションポリシーが機能して来なかったことなど、多面的な原因が考えられる。

2024年度実施 部局別自己点検報告書（共通教育機構）

| I. 教学マネジメントに関する点検  |   |   |                       |                             |                         |
|--|---|---|-----------------------|-----------------------------|-------------------------|
| I - (1) 本自己点検を機構の会議体を通じて行うなど、執行部の取組として実施していますか？  |   |   |                       |                             |                         |
| <input type="radio"/>  | はい →  | 会議体名称   | 共通教育機構会議              | 議事録有無 <input type="radio"/> |                         |
|  | いいえ   |   |                       |                             |                         |
| I - (2) 共通教育における教育目標、DPは設定されていますか？   |   |   |                       |                             |                         |
| <input type="radio"/>  | はい →  | どこに明示されているか記載してください。→学習のてびき 2023年度版 p.63                  |                       |                             |                         |
|  | いいえ   |   |                       |                             |                         |
| I - (3) 共通教育におけるCPは設定されていますか？  |   |   |                       |                             |                         |
| <input type="radio"/>  | はい →  | どこに明示されているか記載してください。→学習のてびき 2023年度版 p.62 「カリキュラムの構成」として記載 |                       |                             |                         |
|  | いいえ   |   |                       |                             |                         |
| I - (4) 現状のDP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、2023年度中に確認・検証をどの程度（5段階）行いましたか？  |   |   |                       |                             |                         |
| 2:確認・検証し、十分な整合性を確認できた  |   | 実施会議体名称   | 共通教育機構会議              | 議事録有無 <input type="radio"/> |                         |
| I - (5) 現状のDP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。   |   |   |                       |                             |                         |
| 各科目担当者から運用上の問題点の指摘はなく、特に改善を行う必要はない。  |   |   |                       |                             |                         |
| I - (6) 大学の教育目標達成に向けてDP,CP,APに基づいた教育のマネジメントを実行するにあたり、困っている点があれば、具体的に記載してください。  |   |   |                       |                             |                         |
| 学生の身体機能低下により「スポーツ実習」等でケガが増えているが、現在、本学の保健室は非常勤の看護師のみで関係部署と連携が図られておらず、担当の先生方から不安の声が寄せられている。ケガや急病など学生に何かあったときに適切に判断できる、および予防の観点からも助言できる専任の保健師を採用し、保健室との連携体制を整える必要があると思われる。全学的なリスクマネジメントでもあるが、共通教育のスポーツ実習においては到達目標の1つに「スポーツ種目の実践を通して、健康・体力づくりの基礎を習得する」を掲げており、その実践が裏目に出ることがないよう、早急に対応をお願いしたい。 |   |   |                       |                             |                         |
| I - (7) 機構の同マネジメントにおいて意義がある、または効果的な取組があれば、具体的に記載してください。（例：部門内FD、教員間コミュニケーションツールの活用など）  |   |   |                       |                             |                         |
| 共通教育に関わる教員が集まり、年4回開催している教員会議は、教員が抱えている問題や悩みを共有、解決する意見交換の場として機能している。<br>毎月定例で開催している部門長が集まる機構会議は業務上必要な情報共有、業務指示の場として機能している。<br>年2回開催している共通教育機構FDは、共通教育に共通の課題の解決に資している。   |   |   |                       |                             |                         |
| II. DPにもとづいた学修成果の把握に関する点検  |   |   |                       |                             |                         |
| ※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、 <u>アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法で、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を行うこと</u> を指します。学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。   |   |   |                       |                             |                         |
| II - (1) 学修成果に関する以下の指標のうち、2023年度中の学部の学修成果の把握・検証において <u>実際に活用・参照したもの</u> について、全て○を選択してください。   |   |   |                       |                             |                         |
| <input type="radio"/>  | GPS-Academic  | <input type="radio"/>                                     | GPA                   | <input type="radio"/>       | 成績分布                    |
| <input type="radio"/>  | 企業アンケート   | <input type="radio"/>                                     | 外部検定試験（               | <input type="radio"/>       | 定期試験                    |
| <input type="radio"/>  | 進級率（留年率）  | <input type="radio"/>                                     | 標準修業年限卒業率             | <input type="radio"/>       | 実就職率                    |
|  |   |   |                       | <input type="radio"/>       | 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）結果 |
|  |   |   |                       | <input type="radio"/>       | 学生アンケート（DP成長実感、満足度等）    |
|  |   |   |                       | <input type="radio"/>       | 進路決定率                   |
| II - (2) 上記で選択した項目を活用し、学修成果の把握・検証をどのように行ったかについて、具体的に記載してください。  |   |   |                       |                             |                         |
| 授業アンケート等をもとに各科目のDPへの寄与度等を把握・検証した。  |   |   |                       |                             |                         |
| II - (3) 学修成果の把握・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。  |   |   |                       |                             |                         |
| 各科目担当者において必要な改善を行っていると考えますが、機構としては把握していない。学生アンケートやGPS-Aアンケートでは、語学以外の共通教育科目の成果や課題が見えないため、科目ごとの授業評価アンケート/回答の結果を共通教育の部門単位でまとめることができないか、教務に検討をお願いしている。   |   |   |                       |                             |                         |
| V. 学生アンケートに基づく点検   |   |   |                       |                             |                         |
| V - (1) 2023年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）   |   |   |                       |                             |                         |
| 確認・検証会議体名称   | 第2回 共通教育機構会議、<br>第1回 共通教育機構教員会議   | 議事録有無   | <input type="radio"/> |                             |                         |
| V - (2) 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果の自由記述 <u>以外の</u> データから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。  |   |   |                       |                             |                         |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点  | 特になし。   |   |                       |                             |                         |
| 改善や検討を要する点   | 「語学教育・語学支援」の満足度を高める必要がある。   |   |                       |                             |                         |
| V - (3) 2023年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。  |   |   |                       |                             |                         |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点  | 特になし。   |   |                       |                             |                         |
| 改善や検討を要する点   | 国内学生の「語学教育・語学力向上満足度」が低い。またGS学科所属以外で「留学したくない」と回答した国内学生が多い。→V-(2)、V-(3)について、具体的に語学教育でどのような点が不満なのか、学生が何を求めているのかを調査し、改善策を検討し、今年度中に調査結果と改善提案を提出する。 |   |                       |                             |                         |

## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（人文学研究科）

| I. 教学マネジメントに関する点検  |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
|--|---------------|---|-----------|--|-------------------------|---|------------------------------|----|-------------------------|
| I - (1) 本自己点検を部局内の会議体を通じて行うなど、執行部の主体的な取組として実施していますか？   |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| ○  | はい →          | 会議体名称   | 人文学研究科委員会 | 議事録有無  | ○                       |   |                              |    |                         |
|  | いいえ           |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (2) 現状の研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、2023年度中に確認・検証をどの程度（5段階）行いましたか？   |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| 3:確認・検証し、一定の適合性を確認できたが改善の余地がある   |               | 実施会議体名称   | 人文学研究科委員会 | 議事録有無  | ○                       |   |                              |    |                         |
| I - (3) 確認・検証の結果、2023年度中に変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。  |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| 2021年度における3つのポリシー（以下、3ポリシー）の旧版改定を始点に、2022年度にはカリキュラムマトリクスおよび「授業の目的、到達目標」を新規策定し、2023年度後半には、これらの教学要素の具体的な体現である人文学研究科の授業科目のシラバス作成を、2024年度に向けて実施した。シラバス作成時において、授業科目と「授業の目的、到達目標」との非対応（不整合）に判明したが、シラバス作成に影響がでないようにそれを調整改善し、2024年度のシラバス開示に間に合わせた。   |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (4) 現状の研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。  |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| 2021年度以降、新3ポリシー作成（2021年度）、カリキュラムマトリクスおよび「授業の目的、到達目標」の策定（2022年度）、およびそれらの教学改革を踏まえてのシラバス作成（2023年度）と、段階を踏んで人文学研究科の教学改革を進行してきたが、ここ3年間は、年度ごと（段階ごと）の改革事項のみに関心が集中し、全体的な視野から余裕をもってそれらの改革事項の個々の側面およびそれらの「整合性」を点検するための時間がなかったというのが正直な所見である。2024年度は、研究科教務委員の役割を研究科長から切り離し、新しく教務委員を置いたので、点検および検討体制は昨年度よりも改善したと考えている。  |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (5) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、教員間の理解はどの程度（5段階）でしたか？   |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| 3:一定の理解・共有がされているが課題がある   |               | 回答理由→<br>人文学研究科委員会では、過去3年の間、急速に進めた3ポリシーからシラバス作成に至るまでの一連の教学改革に際して、各年度の改革項目に関して研究科委員会構成教員たちの間に理解を深める為に、年度ごとの改革項目を研究科のFD活動の対象に位置づける、その活動を行ってきた経緯がある。ただし、FD活動を十分な時間をかけて行えた、と明言することはできない。理由は、研究科委員会において、教員間での理解を深めるだけの、会議時間の確保が難しいからである。 |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (6) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度（5段階）されていましたか？   |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| 3:説明をし、学生の一定の理解を確認できたが改善の余地がある   |               | 回答理由→<br>4月の合同ガイダンスで院生には資料を配布し説明したが、短い時間の説明だと形式的な説明にならざるを得なく、より理解を深めるためには、人文学合同演習などで、より実践的な授業的観点から説明・講義していくことが必要であると思っている。  |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (7) 研究科のDP,CP,APに基づいた教育のマネジメントを実行するにあたり、困っている点があれば、具体的に記載してください。   |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| まずは、2021年度の3ポリシー改革から始まり、カリキュラムマトリクスおよび「授業の目的、到達目標」をベースにしたシラバス作成に至る、一連の教学改革という観点では、上記I-(5)で述べたように、研究科委員会の開催時間そのものが短すぎるという困難さがある。慣例として、研究科委員会の開催は、各月の第4週目2限に実施される学部教員会議の後に開催しているが、学部教員会議が延長する場合もあり、研究科委員会の時間を1時間確保するのも難しい状況である（3限が始まる故に）。もちろん、この短時間ですべての議案を審議検討することもできる月も存在することは確かだが、特に自己点検や検討が必要とされる重要事案については、例えば、3月上旬に実施される修了判定研究科委員会のように、会議として独立した1コマ分を用いた会議時間の確保が必要になる。その点で、毎月の短時間開催ではなく、隔月の開催も念頭に入れた、固定枠の時間での研究科委員会の開催が必要だと思われる。次に、人文学研究科の教学マネジメントは、人文学研究科単体の教学マネジメントではなく、他の3研究科を含めた、より上位の大学院全体の教学マネジメントのもとで動いている。その点で他の研究科教員との意見交換や検討は、人文学研究科の教学マネジメントを運用する際に大きく役に立つが、その手段が現在、存在しない。また、このような研究科間の情報交換の不交通が、修士課程（博士前期課程）と博士後期課程の別、学部と研究科の別、指導教育体制と学位審査体制の別、大学設置基準と大学院設置基準の別、等、区別が必要な案件の混同化に繋がり、研究科による主体的な教学マネジメントの実行の困難さになっている感がある。 |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (8) 研究科の同マネジメントにおいて意義がある、または効果的な取組があれば、具体的に記載してください。（例：研究科内FD、教員間コミュニケーションツールの活用など）  |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| 研究科内では、常に、年度ごとに行う改善・検討課題を、研究科委員会でFDとして共有している。  |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| II. DPIにもとづいた学修成果の把握に関する点検   |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| ※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、 <u>アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法で、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を行うこと</u> を指します。学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。   |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| II - (1) 学修成果に関する以下の指標のうち、2023年度中の研究科の学修成果の把握・検証において実際に活用・参照したもののについて、全て○を選択してください。  |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| ○  | 卒業制作・論文ルーブリック | ○   | GPA       | ○  | 成績分布                    | ○ | 定期試験                         | ○  | 学生アンケート（DP成長実感、満足度等）    |
|  | 外部検定試験（ ）     | ○   | 実就職率      | ○  | 進路決定率                   | ○ | 企業アンケート                      | ○  | 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）結果 |
| ○  | 進級率（留年率）      | ○   | 修了率       | ○  | 博士学位授与率                 | ○ | 上記以外 → （ ）                   | ○  |                         |
| II - (2) 卒業制作・論文ルーブリックの各項目は、研究科のどのDPを測定しているものか、関連が明確になっていますか？  |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| ○  | はい →          | 各項目とDPとの関連を具体的に記載してください。→   |           | 人文学研究科の場合、修士論文のルーブリック評価に関しては、DPをルーブリックの評価項目と紐づけており、その関連は明確である。 |                         |   |                              |    |                         |
|  | いいえ →         | 各項目とDPの関連を明確にするために、2024年度中の改善計画について記載してください。→   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| II - (3) 卒業制作・論文ルーブリックを除き、(1)で選択した項目を活用し学修成果の把握・検証をどのように行ったかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。   |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| 進級率および修了率については、3月の研究科委員会で共有し、進路決定率については、数値そのものは出さなかったが、進学者の修士論文題名を大学院パンフレットに掲載するなどして利用した。  |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく説明されていますか？   |               |   |           |  |                         |   |                              |    |                         |
| ○  | はい →          | 説明方法を選択してください（複数可）  |           | ○  | 大学HP                    | ○ | 学習のてびき2023（当該ページを記載してください。）→ | p. | 176 - 178               |
|  | いいえ           |   |           | ○  | 研究科独自資料（当該資料を別添してください。） |   |                              |    |                         |

|   |      |   |                         |  |  |
|---|------|---|-------------------------|--|--|
| II - (5) 学修成果の把握・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。   |      |   |                         |  |  |
| 学位審査判定時におけるルーブリック評価の試験的導入。  |      |   |                         |  |  |
| <b>III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検</b>   |      |   |                         |  |  |
| III - (1) APに基づいた入試制度や運用体制、入試の実施状況について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）  |      |   |                         |  |  |
| ○   | はい → | 会議体名称   | 人文学研究科委員会               | 議事録有無  | ○                                      |
|   |      | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |                         | 「2024年度大学院入試について」（文責：入学グループ／2023.4.10）および2023年度2期入試から人文学研究科に入試・広報担当教員の役職を置いた。  |  |
|   |      | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |                         | 入学グループ発出の上記文書による一次審査における「説明動画」の時間短縮（3分間）案を、APに基づいた検討を行ったところ、特に、AP項目第2項に反するものであるとし、人文学研究科委員会では、従来通りの長さ（20分）で「説明動画」を収録、提出させることに決定した。また、2023年度まで入試・広報の仕事を研究科長が担っていたが、この仕事を別の教員に割り振り、入試・広報体制を強化した。 |  |
|   | いいえ  |   |                         |  |  |
| III - (2) 各入試とAPとの関連性は、志願者にとって分かりやすく明示されていましたか？   |      |   |                         |  |  |
| ○   | はい → | 明示方法を選択してください（複数可）  | ○ 大学HP                  | ○ 入試広報物（媒体名を記載してください） →  | 「京都精華大学大学院2024年度入学試験要項」<br>「大学院パンフレット」 |
|   |      |   | 研究科独自資料（当該資料を別添してください。） |  |  |
|   | いいえ  |   |                         |  |  |
| <b>IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検</b>   |      |   |                         |  |  |
| IV - (1) 各研究科の学生支援体制や内容の適切性について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？   |      |   |                         |  |  |
| ○   | はい → | 会議体名称   | 人文学研究科委員会               | 議事録有無  | ○                                      |
|   |      | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |                         | 学習障害支援室からのデータの口頭での共有、学生からの聞き取り、TA制度の人的予算化、   |  |
|   |      | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |                         | 院生室のPC環境、ロッカーの整備（2024年度現在、すでに改善済み）   |  |
|   | いいえ  |   |                         |  |  |
| IV - (2) 各研究科の学生支援体制や内容について、研究科の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。   |      |   |                         |  |  |
| 人文学研究科では、研究科予算として院生に国際文化学部授業科目をメインにTAを行ってもらう予算が含まれ、積極的に、TA経験を積ませ、院生にも高評価を得ている。院生研究費補助費の申請窓口の一本化（院生が予算化されている院生研究費を申請しづらい状況があったので3年前から予算委員である研究科長が定期的に申請を院生に促し、昨年度の場合には、インボイス制度導入で提出書類が変更になったので、丁寧に個別に対応を説明し、結果、予算執行率が高くなるよう心がけた）。人文学合同演習における1年次後期からの指導教員決定に関する情報提供や相談。 |      |   |                         |  |  |
| IV - (3) 各研究科の学生支援体制や内容について、今後改善や検討が必要な点があれば、具体的に記載してください。  |      |   |                         |  |  |
| 院生の在籍数が多くなり、院生室が狭くなりつつある。PC環境は整ったが、院生室で研究するという状態までには至っていないのが現状で、どこかより広い院生室が必要であると考えている。   |      |   |                         |  |  |
| <b>V. 学生アンケートに基づく点検</b>   |      |   |                         |  |  |
| V - (1) 2023年度中に、研究科の教育内容や方法を検証する目的で、学生へのアンケートまたはヒアリングなどを実施しましたか？   |      |   |                         |  |  |
| ○   | はい → | 実施内容・方法等について具体的に記載してください。→  |                         | 授業アンケートを全研究科でまとめて行った。  |  |
|   |      |   |                         |  |  |
|   | いいえ  |   |                         |  |  |

## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（デザイン研究科）

| I. 教学マネジメントに関する点検  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
|--|---------------|---|--|--|-------------------------|---|------------------------------|----|-------------------------|
| I - (1) 本自己点検を部局内の会議体を通じて行うなど、執行部の主体的な取組として実施していますか？   |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| ○  | はい →          | 会議体名称   | デザイン研究科会議  | 議事録有無  | ○                       |   |                              |    |                         |
|  | いいえ           |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (2) 現状の研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、2023年度中に確認・検証をどの程度（5段階）行いましたか？   |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| 3: 確認・検証し、一定の適合性を確認できたが改善の余地がある  |               | 実施会議体名称                                       | 研究科長による確認  | 議事録有無  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (3) 確認・検証の結果、2023年度中に変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| シラバスの内容に関しては、確認だけを行った。   |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (4) 現状の研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| 研究科のDP,CP,「授業の目的、到達目標」の間の整合性において、不整合の授業がある。改善した内容の授業を準備する予定である。  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (5) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、教員間の理解はどの程度（5段階）でしたか？   |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| 3: 一定の理解・共有がされているが課題がある  |               | 回答理由→   | 2023年度はルーブリック作成の際、常勤の教員間では教育目標について議論されたので理解が進んでいると考えるが、新しい非常勤に関しては採用の際にお知らせしているが、以前から勤めておられる非常勤に関しては、教育目標についての確認ができていない。 |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (6) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度（5段階）されていましたか？   |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| 2: 十分な説明をし、学生の一定の理解を確認できた  |               | 回答理由→   | 春のオリエンテーションの際、2023年度に決定したルーブリックの内容について説明した。また、一年生に関しては、全員が履修する授業にて、具体的に課題を与えながら説明している。                                   |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (7) 研究科のDP,CP,APIに基づいた教育のマネジメントを実行するにあたり、困っている点があれば、具体的に記載してください。  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| 教員全員のシラバスの内容は、研究科長だけでチェックする体制になっている。関連するシラバスについての会議資料を作成することは非常に時間がかかり、現状では負担が大きすぎると思われる。また、大学院の授業に関するアンケート調査が十分に行われていないため、現状を把握することは難しいと考える。  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| I - (8) 研究科の同マネジメントにおいて意義がある、または効果的な取組があれば、具体的に記載してください。（例：研究科内FD、教員間コミュニケーションツールの活用など）  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| 非常勤を含めた研究科全体の懇談会を年度末に開くのはどうか。研究科の情報共有のためのサイトを立ち上げるなどによる可能性を考えてみたい。   |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| II. DPにもとづいた学修成果の把握に関する点検  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| ※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、 <u>アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法で、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を行うこと</u> を指します。学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。 |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| II - (1) 学修成果に関する以下の指標のうち、2023年度中の研究科の学修成果の把握・検証において実際に活用・参照したのについて、全て○を選択してください。  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| ○  | 卒業制作・論文ルーブリック | ○   | GPA  | ○  | 成績分布                    | ○ | 定期試験                         | ○  | 学生アンケート（DP成長実感、満足度等）    |
| ○  | 外部検定試験（ ）     | ○   | 実就職率   | ○  | 進路決定率                   | ○ | 企業アンケート                      | ○  | 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）結果 |
| ○  | 進級率（留年率）      | ○   | 修了率  | ○  | 博士学位授与率                 | ○ | 上記以外 → （ ）                   |    |                         |
| II - (2) 卒業制作・論文ルーブリックの各項目は、研究科のどのDPを測定しているものか、関連が明確になっていますか？  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| ○  | はい →          | 各項目とDPとの関連を具体的に記載してください。→                     |  | デザイン研究科 修士課程（実技系）<br>・【DP-1】知識と理解：専門分野における新旧の研究制作の成果を熟知するとともに、それによって培われた知性と人間性で社会の発展に貢献できる。→ 社会性のあるテーマの設定、コンセプトの審査<br>・【DP-2】創造的思考と考察：対象をより深く考察することができ、複数の視点から問題解決の方法を探ることができる。→ アイディアの審査<br>・【DP-3】技術と表現：各分野での確固たる技術に立脚した表現で社会の共感・関心を得ることができる。→ デザインスキルの審査<br>・【DP-4】視点と協働：多様な価値観のもとで他者と協調しながら課題解決に取り組むことができる。→ 他者へのアドバイス／他者の意見の反映の審査<br>・【DP-5】社会への関心と行動：高度なコミュニケーション、課題設定などを通して、総合的な観点から社会や教育の発展に貢献することができる。→ 作品の完成度／プレゼンテーションの審査 |                         |   |                              |    |                         |
| ○  | いいえ →         | 各項目とDPの関連を明確にするために、2024年度中の改善計画について記載してください。→ |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| II - (3) 卒業制作・論文ルーブリックを除き、(1) で選択した項目を活用し学修成果の把握・検証をどのように行ったかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| 特に実施していない。   |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく説明されていますか？   |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| ○  | はい →          | 説明方法を選択してください（複数可）                            |  | ○  | 大学HP                    | ○ | 学習のてびき2023（当該ページを記載してください。）→ | p. | 184 - 187               |
|  |               |   |  | ○  | 研究科独自資料（当該資料を別添してください。） |   |                              |    |                         |
|  | いいえ           |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| II - (5) 学修成果の把握・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。  |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |
| 特になし   |               |   |  |  |                         |   |                              |    |                         |

### Ⅲ. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

Ⅲ- (1) APに基づいた入試制度や運用体制、入試の実施状況について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）

|       |   |  |       |  |
|-------|---|--|-------|--|
| はい →  | 会議体名称   |  | 議事録有無 |  |
|       | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |  |       |  |
| ○ いいえ | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |  |       |  |

Ⅲ- (2) 各入試とAPとの関連性は、志願者にとって分かりやすく明示されていましたか？

|        |                    |   |                         |   |                       |        |
|--------|--------------------|---|-------------------------|---|-----------------------|--------|
| ○ はい → | 明示方法を選択してください（複数可） | ○ | 大学HP                    | ○ | 入試広報物（媒体名を記載してください） → | 入学試験要項 |
|        |                    |   | 研究科独自資料（当該資料を別添してください。） |   |                       |        |
| ○ いいえ  |                    |   |                         |   |                       |        |

### Ⅳ. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

Ⅳ- (1) 各研究科の学生支援体制や内容の適切性について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？

|        |   |           |       |   |
|--------|---|-----------|-------|---|
| ○ はい → | 会議体名称   | デザイン研究科会議 | 議事録有無 | ○ |
|        | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |           |       |   |
| ○ いいえ  | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |           |       |   |

2023年4月第1回の会議で、個々の学生の担当者を決定し、指導体制を確認した。

Ⅳ- (2) 各研究科の学生支援体制や内容について、研究科の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

Ⅳ- (3) 各研究科の学生支援体制や内容について、今後改善や検討が必要な点があれば、具体的に記載してください。

研究科ではゼミ単位の指導となり、学生の支援体制が十分に行われているか、確認するべきがない。学生が困った時は教員も相談に乗るとオリエンテーションで説明しているが、現在のところ有効な運営がなされているか不明である。

### Ⅴ. 学生アンケートに基づく点検

Ⅴ- (1) 2023年度中に、研究科の教育内容や方法を検証する目的で、学生へのアンケートまたはヒアリングなどを実施しましたか？

|        |                            |                       |
|--------|----------------------------|-----------------------|
| ○ はい → | 実施内容・方法等について具体的に記載してください。→ | 授業アンケートを全研究科でまとめて行った。 |
|        | ○ いいえ                      |                       |

2024年度実施 部局別自己点検報告書（芸術研究科）

I. 教学マネジメントに関する点検

I - (1) 本自己点検を部局内の会議体を通じて行うなど、執行部の主体的な取組として実施していますか？

|   |      |       |          |       |   |
|---|------|-------|----------|-------|---|
| ○ | はい → | 会議体名称 | 芸術研究科委員会 | 議事録有無 | ○ |
|   | いいえ  |       |          |       |   |

I - (2) 現状の研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、2023年度中に確認・検証をどの程度（5段階）行いましたか？

|                        |         |       |       |  |
|------------------------|---------|-------|-------|--|
| 2: 確認・検証し、十分な整合性を確認できた | 実施会議体名称 | 教務委員会 | 議事録有無 |  |
|------------------------|---------|-------|-------|--|

I - (3) 確認・検証の結果、2023年度中に変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

大学認証評価で是正勧告を受けた「ルーブリックを用いた学習評価とその運用」に関する検討を重ね、2023年度から実技系の演習科目においてルーブリックを用いた学習評価の試験的な運用を開始した。

I - (4) 現状の研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。

領域によってはルーブリックの採点が甘く、領域間でルーブリックの採点基準のすり合わせを必要とするケースが発生した。

I - (5) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、教員間の理解はどの程度（5段階）でしたか？

|                  |       |   |
|------------------|-------|---|
| 2: 十分に理解・共有されている | 回答理由→ | 博士前期課程では「独創的な表現を追求するアーティスト・高度専門職業人」という教育目標が共有されている。 |
|------------------|-------|---|

I - (6) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、学生への説明はどの程度（5段階）されていましたか？

|                              |       |   |
|------------------------------|-------|---|
| 1: 十分かつ丁寧な説明をし、学生の深い理解を確認できた | 回答理由→ | 博士前期課程では入学時のガイダンスから始まり、出口の学位審査会や修了制作展のゲストによる合評会まで、作家養成という目的・目標が共有されている。一方、博士後期課程では、学習のてびきには、「作品」や「制作」を積極的に進めること、「制作」と理論のバランスがとれた調和ある研究計画の設定、「論文と作品の審査」と記載されているのに対し、規程には論文についてしか定めがないので、今後、規程の改定を行い「作品」「制作」を博士後期課程の学位審査対象に加える作業を行なうことで、博士後期課程を上級芸術家養成機関としたい。 |
|------------------------------|-------|---|

I - (7) 研究科のDP、CP、APIに基づいた教育のマネジメントを実行するにあたり、困っている点があれば、具体的に記載してください。

まずは研究科と学部教育との違いを明確にすることが必要であると感じる。本学では研究科は学部の下にあるかのように扱われてきたように感じるが、研究科は本来上位にあり、より専門的で高いレベルで研究と制作を行う場であることの共有が必要である。更に、実践系の大学院というものは何のためにあるのかを理解すべきである。「実践に基づく研究」(practice based research)あるいは「研究としての実践」(practice as research)という考え方が国際的に共有されている。実践と研究は別のものであるという古い考え方ではなく、「実践＝制作」「研究＝言語化」と別個のものではないことを大学や教員が理解すべきである。

I - (8) 研究科の同マネジメントにおいて意義がある、または効果的な取組があれば、具体的に記載してください。（例：研究科内FD、教員間コミュニケーションツールの活用など）

II. DPにもとづいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法で、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を行うことを指します。学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II - (1) 学修成果に関する以下の指標のうち、2023年度中の研究科の学修成果の把握・検証において実際に活用・参照したもののについて、全て○を選択してください。

|   |               |   |      |   |         |  |         |  |                         |
|---|---------------|---|------|---|---------|--|---------|--|-------------------------|
| ○ | 修了制作・論文ルーブリック | ○ | GPA  | ○ | 成績分布    |  | 定期試験    |  | 学生アンケート（DP成長実感、満足度等）    |
|   | 外部検定試験（ ）     |   | 実就職率 | ○ | 進路決定率   |  | 企業アンケート |  | 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）結果 |
| ○ | 進級率（留年率）      | ○ | 修了率  | ○ | 博士学位授与率 |  | 上記以外 →  |  | （ 院生による展覧会と卒業後の作家としての活躍 |

II - (2) 修了制作・論文ルーブリックの各項目は、研究科のどのDPを測定しているものか、関連が明確になっていますか？

|   |       |   |   |
|---|-------|---|---|
| ○ | はい →  | 各項目とDPとの関連を具体的に記載してください。→                     | 知識と理解→テーマの設定・コンセプト、創造的思考と考察→アイデア、技術と表現→技術と表現、視点と協働→他者へのアドバイス、社会への関心と行動→作品の完成度・プレゼンテーションといったDPと作品が無理なく結びついている。 |
|   | いいえ → | 各項目とDPの関連を明確にするために、2024年度中の改善計画について記載してください。→ |   |

II - (3) 修了制作・論文ルーブリックを除き、(1)で選択した項目を活用し学修成果の把握・検証をどのように行ったかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

博士前期課程においては、実際に学生全員が修了展で作品を発表し全員が修了できたという事実に基づき記載している。更に前期課程修了後に単に就職しているだけでなく、作家活動を継続していることがホームページ、DM等で確認できた時にファインアートを大学院で学ぶ場合の学修成果が把握・検証できると考える。

II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく説明されていますか？

|   |      |                    |   |                         |   |                              |    |                 |
|---|------|--------------------|---|-------------------------|---|------------------------------|----|-----------------|
| ○ | はい → | 説明方法を選択してください（複数可） | ○ | 大学HP                    | ○ | 学習のてびき2023（当該ページを記載してください。）→ | p. | 180-182、198-201 |
|   | いいえ  |                    |   | 研究科独自資料（当該資料を別添してください。） |   |                              |    |                 |

II - (5) 学修成果の把握・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。

博士後期課程では業績審査規程を具体化する補助資料を作成し、業績審査規程の一部見直しも行ったことで、学生が業績の目標を立てやすくなると考える。これを用いて業績審査を3年次の秋に行うことに変更したことで、学修成果である業績をつくりやすくなる。博士前期課程でも研究指導体制を主査1名・副査2名体制で行うように変更したことで、学位審査会に於いて領域の教員以外から客観的な意見を受けることができるようになった。今後、専任教員だけでなく、特任教員やシニア教員も副査になれるように変更を行う計画である。この改善により、限定された教員しか学位審査ができない問題を解決する。

III. APIに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

III - (1) APIに基づいた入試制度や運用体制、入試の実施状況について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）

|   |      |       |          |       |   |
|---|------|-------|----------|-------|---|
| ○ | はい → | 会議体名称 | 芸術研究科委員会 | 議事録有無 | ○ |
|   | いいえ  |       |          |       |   |

確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。

留学生の日本語能力の低下による授業レベルの低下

確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。

博士前期課程だけでなく、博士後期課程も日本語能力試験に高いレベルであるN1を要求する変更をした。博士前期課程の実践系の領域では、国費留学生を除き、日本語で小論文を回答する変更をした。

|   |      |   |                         |       |   |                       |        |
|---|------|---|-------------------------|-------|---|-----------------------|--------|
| Ⅲ-（２）各入試とAPとの関連性は、志願者にとって分かりやすく明示されていきましたか？                                       |      |   |                         |       |   |                       |        |
| ○   | はい → | 明示方法を選択してください（複数可）  | ○                       | 大学HP  | ○   | 入試広報物（媒体名を記載してください） → | 入学試験要項 |
|   |      |   | 研究科独自資料（当該資料を別添してください。） |       |   |                       |        |
|   | いいえ  |   |                         |       |   |                       |        |
| <b>Ⅳ. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検</b>  |      |   |                         |       |   |                       |        |
| Ⅳ-（１）各研究科の学生支援体制や内容の適切性について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？                     |      |   |                         |       |   |                       |        |
| ○   | はい → | 会議体名称   | 芸術研究科会議                 | 議事録有無 | ○   |                       |        |
|   |      | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |                         |       |   |                       |        |
|   | いいえ  | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |                         |       | 主査1名、副査2名体制での研究指導体制に変更を行い、学習のてびきにそれを記載し、主査は入学時に決めること、副査は2年の前期中までに決めることを入学ガイダンスで学生に周知した。 |                       |        |
| Ⅳ-（２）各研究科の学生支援体制や内容について、研究科の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。               |      |   |                         |       |   |                       |        |
| 博士前期課程でも研究指導体制を主査1名・副査2名体制で行うように変更したことで、学位審査会に於いて領域の教員以外から客観的な意見を受けることができるようになった。 |      |   |                         |       |   |                       |        |
| Ⅳ-（３）各研究科の学生支援体制や内容について、今後改善や検討が必要な点があれば、具体的に記載してください。                            |      |   |                         |       |   |                       |        |
| 今後、専任教員だけでなく、特任教員やシニア教員も副査になれるように変更を行う計画である。この改善により、限定された教員しか学位審査ができない問題を解決する。    |      |   |                         |       |   |                       |        |
| <b>Ⅴ. 学生アンケートに基づく点検</b>   |      |   |                         |       |   |                       |        |
| Ⅴ-（１）2023年度中に、研究科の教育内容や方法を検証する目的で、学生へのアンケートまたはヒアリングなどを実施しましたか？                    |      |   |                         |       |   |                       |        |
| ○   | はい → | 実施内容・方法等について具体的に記載してください。→  |                         |       | 授業アンケートを全研究科でまとめて行った。   |                       |        |
|   |      | いいえ   |                         |       |   |                       |        |



2024年度実施 部局別自己点検報告書（マンガ研究科）

| I. 教学マネジメントに関する点検   |               |   |   |   |
|---|---------------|---|---|---|
| I - (1) 本自己点検を部局内の会議体を通じて行うなど、執行部の主体的な取組として実施していますか？  |               |   |   |   |
| <input type="radio"/>   | はい →          | 会議体名称   | マンガ研究科委員会   | 議事録有無 <input type="radio"/>   |
|   | いいえ           |   |   |   |
| I - (2) 現状の研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、2023年度中に確認・検証をどの程度（5段階）行いましたか？  |               |   |   |   |
| 2: 確認・検証し、十分な整合性を確認できた  |               | 実施会議体名称   | マンガ研究科委員会   | 議事録有無 <input type="radio"/>   |
| I - (3) 確認・検証の結果、2023年度中に変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。   |               |   |   |   |
| 前期課程、後期課程、ともに学院審査時に2025年度新入生から適用されるルーブリックを試用し、その有効性を検証した。その結果、若干の修正点はあるものの、概ね有効性は認められた。   |               |   |   |   |
| I - (4) 現状の研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。   |               |   |   |   |
| それらの整合性には問題はない。   |               |   |   |   |
| I - (5) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、教員間の理解はどの程度（5段階）でしたか？  |               |   |   |   |
| 2: 十分に理解・共有されている  |               | 回答理由→   | それらの検討課題を研究科内で、十分に協議しているため、教員間の理解を得られているものと考えている。 |   |
| I - (6) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度（5段階）されていましたか？  |               |   |   |   |
| 2: 十分な説明をし、学生の一定の理解を確認できた   |               | 回答理由→   | 入学時のオリエンテーションと各ゼミにおいて、十分に説明がなされていると考えている。         |   |
| I - (7) 研究科のDP、CP、APに基づいた教育のマネジメントを実行するにあたり、困っている点があれば、具体的に記載してください。  |               |   |   |   |
| 理論系の受験者が例年、少人数であるがゆえに、学力ないし業績レベルが低い者が入学するケースがある。実技系と理論系のカリキュラムの連続性がなく、研究者の育成を明言している後期課程へ、実技系の学生が進学するルートが閉ざされている。  |               |   |   |   |
| I - (8) 研究科の同マネジメントにおいて意義がある、または効果的な取組があれば、具体的に記載してください。（例：研究科内FD、教員間コミュニケーションツールの活用など）   |               |   |   |   |
| 教員間のコミュニケーションツールとしてslackを有効活用している。定期的にコキウムを開催し、学生、教員間の研究の共有とコミュニケーションを図っている。ゼミが主催する展覧会やイベントへの参加を、積極的に奨励している。  |               |   |   |   |
| II. DPにもとづいた学修成果の把握に関する点検   |               |   |   |   |
| ※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法で、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を行うことを指します。学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。 |               |   |   |   |
| II - (1) 学修成果に関する以下の指標のうち、2023年度中の研究科の学修成果の把握・検証において実際に活用・参照したのものについて、全て○を選択してください。   |               |   |   |   |
| <input type="radio"/>   | 卒業制作・論文ルーブリック | GPA   | 成績分布  | 定期試験  |
| <input type="radio"/>   | 外部検定試験（ ）     | 実就職率  | 進路決定率   | 企業アンケート   |
| <input type="radio"/>   | 進級率（留年率）      | 修了率   | 博士学位授与率   | 学生アンケート（DP成長実感、満足度等）  |
|   |               |   | <input type="radio"/>                             | 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）結果   |
|   |               |   | <input type="radio"/>                             | 上記以外 → （ 学外への研究や制作の発表の積極性）  |
| II - (2) 卒業制作・論文ルーブリックの各項目は、研究科のどのDPを測定しているものか、関連が明確になっていますか？   |               |   |   |   |
| <input type="radio"/>   | はい →          | 各項目とDPとの関連を具体的に記載してください。 →  |   | 全て関連していることが明確になっていて、各項目の基準も妥当であると考えている。   |
| <input type="radio"/>   | いいえ →         | 各項目とDPの関連を明確にするために、2024年度中の改善計画について記載してください。 →                            |   |   |
| II - (3) 卒業制作・論文ルーブリックを除き、(1) で選択した項目を活用し学修成果の把握・検証をどのように行ったかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。   |               |   |   |   |
| 論文や作品を、学会や展覧会や出版物等で、積極的に発表しているかどうかを、学修成果を把握するための基準と見做している。  |               |   |   |   |
| II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく説明されていますか？  |               |   |   |   |
| <input type="radio"/>   | はい →          | 説明方法を選択してください（複数可）  | <input type="radio"/>                             | 大学HP  |
|   |               |   | <input type="radio"/>                             | 学習のてびき2023（当該ページを記載してください。） →   |
|   |               |   | <input type="radio"/>                             | 研究科独自資料（当該資料を別添してください。）   |
| <input type="radio"/>   | いいえ           |   |   |   |
| II - (5) 学修成果の把握・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。   |               |   |   |   |
| 特になし。   |               |   |   |   |
| III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検  |               |   |   |   |
| III - (1) APに基づいた入試制度や運用体制、入試の実施状況について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）  |               |   |   |   |
| <input type="radio"/>   | はい →          | 会議体名称   | マンガ研究科委員会   | 議事録有無 <input type="radio"/>   |
|   | いいえ           |   |   |   |
|   |               | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |   | 入学後の学生の業績、論文数、作品数、それらのクオリティの検証。   |
|   |               | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |   | その検討の結果、留学生の日本語能力試験の資格をN2からN1に引き上げることとなった。これに関連して、インターネット動画による面接の有効性の検証と、質問項目の検討などを行った。 |
| III - (2) 各入試とAPとの関連性は、志願者にとって分かりやすく明示されていましたか？   |               |   |   |   |
| <input type="radio"/>   | はい →          | 明示方法を選択してください（複数可）  | <input type="radio"/>                             | 大学HP  |
|   |               |   | <input type="radio"/>                             | 入試広報物（媒体名を記載してください） →   |
|   |               |   | <input type="radio"/>                             | 入学試験要項  |
| <input type="radio"/>   | いいえ           | 研究科独自資料（当該資料を別添してください。）   |   |   |
|   |               |   |   |   |
| IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検  |               |   |   |   |
| IV - (1) 各研究科の学生支援体制や内容の適切性について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？   |               |   |   |   |
| <input type="radio"/>   | はい →          | 会議体名称   |   | 議事録有無   |
|   | いいえ           |   |   |   |
|   |               | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |   |   |
|   |               | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |   |   |
| IV - (2) 各研究科の学生支援体制や内容について、研究科の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。   |               |   |   |   |
| 特になし。各ゼミや個々の教員に委ねられている。   |               |   |   |   |

|  |      |                            |
|--|------|----------------------------|
| IV-（3）各研究科の学生支援体制や内容について、今後改善や検討が必要な点があれば、具体的に記載してください。        |      |                            |
| 特になし。  |      |                            |
| <b>V. 学生アンケートに基づく点検</b>  |      |                            |
| V-（1）2023年度中に、研究科の教育内容や方法を検証する目的で、学生へのアンケートまたはヒアリングなどを実施しましたか？ |      |                            |
| ○  | はい → | 実施内容・方法等について具体的に記載してください。→ |
|  | いいえ  | 授業アンケートを全研究科でまとめて行った。      |

## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（学生部門）

| 学生部長・学生グループ長   |   |                 |  |            |   |
|--|---|-----------------|--|------------|---|
| <b>V. 学生アンケートに基づく点検</b>  |   |                 |  |            |   |
| <p>1. 2023年度キャンパスライフアンケート結果の検証時に「自部門で改善が必要と思われる点」に記載した内容について、2023年度中に実際に改善した点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）を具体的に記載してください。</p> <p>□窓口対応においては、迅速かつ適切な対応や、入口や事務室内で躊躇している学生には積極的に声をかけるよう努めた。学生からの申し出や問い合わせには、内容取り違えがないよう確認し、傾聴の姿勢で対応することを心掛けた。障害学生支援室のカウンターでは声をかけることが難しい学生を想定し呼び鈴を設置した。</p> <p>□学内での学部や学年を超えた学生間交流の場として、数年ぶりに規模の大きな学園祭が開催された。学生支援チームもコロナ禍で経験の途絶えた学園祭の運営について、学園祭実行委員のサポートを行った。久しぶりに開催された木野祭では、学生が主体的に創造力を発揮する場となった。また、学園祭実行委員による企画・運営による春華祭を支援、新入生には学部や学年を超えた交流の場となる公認学生団体を知る機会となったと考えている。</p> <p>□今後も全学生のための学園祭となるよう引き続きバックアップをしていきたいと考える。</p> <p>□新入生ガイダンス動画では、学内の部署（学生支援チーム、教務チーム、学生相談室など）を紹介し、新入生が相談をする機会が多いであろう場所を示した。また、障害学生支援室の紹介と学生サポーター募集の動画を別のものとし、それぞれの内容をより詳しくした。</p> <p>□公認学生団体の紹介チラシを留学生向けに中・韓・英語で作成した。春華祭の再開、立て看板の一部製作費を補助する仕組みが浸透されてきて、使用する団体も増加している。</p> <p>□日本学生支援機構奨学金業務における事務手続きについては、担当者2名、委託業者との連携など、業務整理ができつつある。引き続き奨学金業務が円滑に進められるように体制を整えていきたい。</p> <p>□検尿の実施方法の改善を求める意見を受け、検診業者と相談し、2024年度は紙コップから尿が見えづらい採尿器に変更して実施した。健診当日、新しい採尿器の使用 방법에戸惑い、掲示されていた説明図に学生が集まり混雑に繋がったため、来年度以降ポータルで事前に説明図を配信する等の工夫を行いたい。</p> <p>□体育施設の利用については、2023年10月末より、申請ルールや使用ルール、用具等を整備して体育施設の一般利用が可能となった。</p> <p>□具体的な要望があった階段への手すりの設置については、施設チームに依頼し設置を完了している。今年度は学内のバリアフリー化にむけて助言や提案を行うために現状調査を行い、来年以降も段階的に続ける予定である。</p> <p>□より一層、利用しやすいキャリア支援チームとするために、学生からのニーズの高い以下の様な講座・イベントの内容を更に充実させキャリアパークで複数実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「職業研究」「インターンシップ」などのキャリア科目等と連携した公開講座</li> <li>・学生の関心が高い業界や企業の卒業生を招いた公開講座や面談</li> <li>・就活ナビサイト等と連携した講座・イベント</li> <li>・増加している学生からの個別相談について相談員人数の増員、多様な相談ニーズに対応できる人材の獲得</li> <li>・キャリア教育・支援連携体制の再構築のためキャリア科目MTG開催</li> <li>・希望が多い業界職種での進路実現を行うための企業人事、卒業生、クリエイターとの連携・情報交換強化</li> </ul>   |   |                 |  |            |   |
| <p>2. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">確認・検証会議体名称</td> <td>学生Gミーティング(学生部長、学生G長、各リーダー、全専任職員)</td> </tr> </table>   |   | 確認・検証会議体名称      | 学生Gミーティング(学生部長、学生G長、各リーダー、全専任職員)   |            |   |
| 確認・検証会議体名称   | 学生Gミーティング(学生部長、学生G長、各リーダー、全専任職員)  |                 |  |            |   |
| <p>3. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果のうち、自由記述<b>以外</b>のデータについて、自部門の観点から評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。（ない場合は“なし”と記載してください。）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">評価できる点、更に伸ばしたい点</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●GPS-Aより</li> <li>・キャンパス、学生の雰囲気がいよという評価があった。</li> <li>●卒業時アンケートより</li> <li>・進路・就職支援についてはほぼ全てのコースにおいて7割近くが「とても満足している」「まあ満足している」と回答している。</li> <li>・学生窓口対応について、ほぼ全てのコースにおいて75%程度の人が「とても満足している」「まあ満足している」と回答している。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>改善や検討を要する点</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●GPS-Aより</li> <li>・本学全体の魅力について、「クラブ・サークル活動、部活動が盛んである」にチェックを入れている数が学部にかかわらず極端に少なかった。コロナ禍に入学している学年の学生を対象にしているため余計に少ないかもしれないが、課外活動が活発になるよう全団体がまずは勧誘に力を入れることが必要。</li> <li>・学生窓口対応に関する評価は学部によって異なるので、学部教員と学生支援チーム、教務チームなど事務局両方の評価が入っているものと考えられるが、満足度は高くない。</li> </ul> </td> </tr> </table>  |   | 評価できる点、更に伸ばしたい点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●GPS-Aより</li> <li>・キャンパス、学生の雰囲気がいよという評価があった。</li> <li>●卒業時アンケートより</li> <li>・進路・就職支援についてはほぼ全てのコースにおいて7割近くが「とても満足している」「まあ満足している」と回答している。</li> <li>・学生窓口対応について、ほぼ全てのコースにおいて75%程度の人が「とても満足している」「まあ満足している」と回答している。</li> </ul>  | 改善や検討を要する点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●GPS-Aより</li> <li>・本学全体の魅力について、「クラブ・サークル活動、部活動が盛んである」にチェックを入れている数が学部にかかわらず極端に少なかった。コロナ禍に入学している学年の学生を対象にしているため余計に少ないかもしれないが、課外活動が活発になるよう全団体がまずは勧誘に力を入れることが必要。</li> <li>・学生窓口対応に関する評価は学部によって異なるので、学部教員と学生支援チーム、教務チームなど事務局両方の評価が入っているものと考えられるが、満足度は高くない。</li> </ul>   |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●GPS-Aより</li> <li>・キャンパス、学生の雰囲気がいよという評価があった。</li> <li>●卒業時アンケートより</li> <li>・進路・就職支援についてはほぼ全てのコースにおいて7割近くが「とても満足している」「まあ満足している」と回答している。</li> <li>・学生窓口対応について、ほぼ全てのコースにおいて75%程度の人が「とても満足している」「まあ満足している」と回答している。</li> </ul>   |                 |  |            |   |
| 改善や検討を要する点   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●GPS-Aより</li> <li>・本学全体の魅力について、「クラブ・サークル活動、部活動が盛んである」にチェックを入れている数が学部にかかわらず極端に少なかった。コロナ禍に入学している学年の学生を対象にしているため余計に少ないかもしれないが、課外活動が活発になるよう全団体がまずは勧誘に力を入れることが必要。</li> <li>・学生窓口対応に関する評価は学部によって異なるので、学部教員と学生支援チーム、教務チームなど事務局両方の評価が入っているものと考えられるが、満足度は高くない。</li> </ul>   |                 |  |            |   |
| <p>4. 2023年度卒業時アンケート結果の「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。（ない場合は“なし”と記載してください。）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">評価できる点、更に伸ばしたい点</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者への理解や尽力のある学風との評価があったことは嬉しく受け止めている。とはいえ、まだまだ浸透していない面もあるので、引き続き理解啓発や情報発信には力を入れていきたい。</li> <li>・多様性を評価する学生が多かった。ダイバーシティを掲げる大学として、今後も大切にしていってほしい。一方で、どのような視点で多様性を評価しているのを読み取りにくいので、分析できる何らかの調査を行ったり、学生や教職員の理解啓発を図る取り組み(Webや冊子での発信や研修等)を行ったりしてほしい。</li> <li>・学生対応もスムーズだったと評価する学生がいた。学生に接する際に心地よい対応ができたのではないかな。</li> <li>・職員の人とも皆優しく、いい意味でフレンドリーな人が多いところが良かった。学生支援の窓口での職員の話し方（ため口）についての指摘があった反面、良い意味でフレンドリーで良かったと感じている学生もいる。「程よい距離感」を大切に、常に意識し学生が相談しやすい雰囲気づくりをこころがけたい。</li> <li>・サークルなどの課外活動が充実していた。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>改善や検討を要する点</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生対応がスムーズだと感じた学生もいる一方で、窓口対応が不十分に感じて不満に思う学生も一定数いた。丁寧な口調で最後まで対応することを心掛ける必要がある。業務が多岐にわたるため、業務担当者でなければ回答できない場面が多い。窓口対応マニュアル等の充実をはかり、よりスムーズな窓口対応をおこなえるようにする。</li> <li>・コロナ禍もあり、学祭やサークル活動を活発に行うことができなかったことも挙げられた。対面実施が可能になったため、コロナ前の頃のように学祭の実施やサークル活動の実施も昨年度より行うことができているため、継続しつつよりレベルアップさせていけるようにする。</li> <li>・スロープやエレベーターのない建物があり、バリアとなっている。まずは、車いすユーザー視点での学内バリアフリー調査を行い、改修が必要な箇所について施設管理チーム等へ共有し、改善を提案する。また、調査結果を公開し、アクセシビリティへの意識を高める。</li> <li>・支援を必要としている学生がスムーズに相談につながるよう、学生相談室の受付や相談体制（カウンセラーの勤務形態等を含めた）の検討を行う。（学生相談室からの回答ですが事務所管が学生グループのため回答しています）</li> <li>・施設使用届のオンライン化について、7月現在情報管理チームと相談開始し、実動に向け現状把握や予算などの算出を3Qを目途に検討を進めている。</li> <li>・学生や教員へより丁寧に支援・対応する為に、人員配置を増やす必要がある。</li> <li>・サークル活動や奨学金の内容について新入生に細かく説明して欲しいという意見があったが、春華祭での新入生勧誘や十分な奨学金に関する説明会など既に改善に努めている。</li> <li>・開室時間延長に関する要望があった保健室は、学生の怪我や急病等、その場で医療的判断が必要とされる事案が頻発する中、現状、非常勤看護師1名体制とかなり脆弱である。また、窓口対応のみならず、本来の役割である大学構成員の健康安全管理が適切に行える体制ではない為、次年度に向けて他大学を参考に、専任の看護師(保健師)1名と、嘱託看護師1名の2名体制の必要性について、担当理事に申告し改善に努めている。</li> </ul> </td> </tr> </table> |   | 評価できる点、更に伸ばしたい点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者への理解や尽力のある学風との評価があったことは嬉しく受け止めている。とはいえ、まだまだ浸透していない面もあるので、引き続き理解啓発や情報発信には力を入れていきたい。</li> <li>・多様性を評価する学生が多かった。ダイバーシティを掲げる大学として、今後も大切にしていってほしい。一方で、どのような視点で多様性を評価しているのを読み取りにくいので、分析できる何らかの調査を行ったり、学生や教職員の理解啓発を図る取り組み(Webや冊子での発信や研修等)を行ったりしてほしい。</li> <li>・学生対応もスムーズだったと評価する学生がいた。学生に接する際に心地よい対応ができたのではないかな。</li> <li>・職員の人とも皆優しく、いい意味でフレンドリーな人が多いところが良かった。学生支援の窓口での職員の話し方（ため口）についての指摘があった反面、良い意味でフレンドリーで良かったと感じている学生もいる。「程よい距離感」を大切に、常に意識し学生が相談しやすい雰囲気づくりをこころがけたい。</li> <li>・サークルなどの課外活動が充実していた。</li> </ul> | 改善や検討を要する点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生対応がスムーズだと感じた学生もいる一方で、窓口対応が不十分に感じて不満に思う学生も一定数いた。丁寧な口調で最後まで対応することを心掛ける必要がある。業務が多岐にわたるため、業務担当者でなければ回答できない場面が多い。窓口対応マニュアル等の充実をはかり、よりスムーズな窓口対応をおこなえるようにする。</li> <li>・コロナ禍もあり、学祭やサークル活動を活発に行うことができなかったことも挙げられた。対面実施が可能になったため、コロナ前の頃のように学祭の実施やサークル活動の実施も昨年度より行うことができているため、継続しつつよりレベルアップさせていけるようにする。</li> <li>・スロープやエレベーターのない建物があり、バリアとなっている。まずは、車いすユーザー視点での学内バリアフリー調査を行い、改修が必要な箇所について施設管理チーム等へ共有し、改善を提案する。また、調査結果を公開し、アクセシビリティへの意識を高める。</li> <li>・支援を必要としている学生がスムーズに相談につながるよう、学生相談室の受付や相談体制（カウンセラーの勤務形態等を含めた）の検討を行う。（学生相談室からの回答ですが事務所管が学生グループのため回答しています）</li> <li>・施設使用届のオンライン化について、7月現在情報管理チームと相談開始し、実動に向け現状把握や予算などの算出を3Qを目途に検討を進めている。</li> <li>・学生や教員へより丁寧に支援・対応する為に、人員配置を増やす必要がある。</li> <li>・サークル活動や奨学金の内容について新入生に細かく説明して欲しいという意見があったが、春華祭での新入生勧誘や十分な奨学金に関する説明会など既に改善に努めている。</li> <li>・開室時間延長に関する要望があった保健室は、学生の怪我や急病等、その場で医療的判断が必要とされる事案が頻発する中、現状、非常勤看護師1名体制とかなり脆弱である。また、窓口対応のみならず、本来の役割である大学構成員の健康安全管理が適切に行える体制ではない為、次年度に向けて他大学を参考に、専任の看護師(保健師)1名と、嘱託看護師1名の2名体制の必要性について、担当理事に申告し改善に努めている。</li> </ul> |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者への理解や尽力のある学風との評価があったことは嬉しく受け止めている。とはいえ、まだまだ浸透していない面もあるので、引き続き理解啓発や情報発信には力を入れていきたい。</li> <li>・多様性を評価する学生が多かった。ダイバーシティを掲げる大学として、今後も大切にしていってほしい。一方で、どのような視点で多様性を評価しているのを読み取りにくいので、分析できる何らかの調査を行ったり、学生や教職員の理解啓発を図る取り組み(Webや冊子での発信や研修等)を行ったりしてほしい。</li> <li>・学生対応もスムーズだったと評価する学生がいた。学生に接する際に心地よい対応ができたのではないかな。</li> <li>・職員の人とも皆優しく、いい意味でフレンドリーな人が多いところが良かった。学生支援の窓口での職員の話し方（ため口）についての指摘があった反面、良い意味でフレンドリーで良かったと感じている学生もいる。「程よい距離感」を大切に、常に意識し学生が相談しやすい雰囲気づくりをこころがけたい。</li> <li>・サークルなどの課外活動が充実していた。</li> </ul>  |                 |  |            |   |
| 改善や検討を要する点   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生対応がスムーズだと感じた学生もいる一方で、窓口対応が不十分に感じて不満に思う学生も一定数いた。丁寧な口調で最後まで対応することを心掛ける必要がある。業務が多岐にわたるため、業務担当者でなければ回答できない場面が多い。窓口対応マニュアル等の充実をはかり、よりスムーズな窓口対応をおこなえるようにする。</li> <li>・コロナ禍もあり、学祭やサークル活動を活発に行うことができなかったことも挙げられた。対面実施が可能になったため、コロナ前の頃のように学祭の実施やサークル活動の実施も昨年度より行うことができているため、継続しつつよりレベルアップさせていけるようにする。</li> <li>・スロープやエレベーターのない建物があり、バリアとなっている。まずは、車いすユーザー視点での学内バリアフリー調査を行い、改修が必要な箇所について施設管理チーム等へ共有し、改善を提案する。また、調査結果を公開し、アクセシビリティへの意識を高める。</li> <li>・支援を必要としている学生がスムーズに相談につながるよう、学生相談室の受付や相談体制（カウンセラーの勤務形態等を含めた）の検討を行う。（学生相談室からの回答ですが事務所管が学生グループのため回答しています）</li> <li>・施設使用届のオンライン化について、7月現在情報管理チームと相談開始し、実動に向け現状把握や予算などの算出を3Qを目途に検討を進めている。</li> <li>・学生や教員へより丁寧に支援・対応する為に、人員配置を増やす必要がある。</li> <li>・サークル活動や奨学金の内容について新入生に細かく説明して欲しいという意見があったが、春華祭での新入生勧誘や十分な奨学金に関する説明会など既に改善に努めている。</li> <li>・開室時間延長に関する要望があった保健室は、学生の怪我や急病等、その場で医療的判断が必要とされる事案が頻発する中、現状、非常勤看護師1名体制とかなり脆弱である。また、窓口対応のみならず、本来の役割である大学構成員の健康安全管理が適切に行える体制ではない為、次年度に向けて他大学を参考に、専任の看護師(保健師)1名と、嘱託看護師1名の2名体制の必要性について、担当理事に申告し改善に努めている。</li> </ul> |                 |  |            |   |

## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（入試部門）

| 入学部長・入学グループ長   |   |  |       |  |       |                        |  |                                |   |   |   |
|--|---|--|-------|--|-------|------------------------|--|--------------------------------|---|---|---|
| Ⅲ. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検   |   |  |       |  |       |                        |  |                                |   |   |   |
| Ⅲ-（１）APに基づいた入試制度や運用体制、入試の実施状況について、2023年度中（～2024年5月まで）に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）  |   |  |       |  |       |                        |  |                                |   |   |   |
| ○  | はい →  | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 2px;">会議体名称</td> <td style="padding: 2px;">入試委員会</td> <td style="width: 20%; padding: 2px;">議事録有無</td> <td style="width: 60%; text-align: center; padding: 2px;">○</td> </tr> </table> | 会議体名称 | 入試委員会  | 議事録有無 | ○                      | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">入学試験の各種データ、学習指導要領、大学入学者選抜実施要項、各種模擬試験データ、他大学の入試動向データ</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。</td> <td style="padding: 2px;">                     2023年度中に根拠データをもとに2024年度に実施する入試制度の設計を行った。<br/>                     ・新学習指導要領に基づき2025年度入試における試験科目、出題範囲の見直しおよび事前告知。<br/>                     ・大学院入試、編入学試験における外国人留学生の出願資格の見直し。<br/>                     ・外国人留学生入試において日本語科目の追加。<br/>                     ・志願者を多面的に評価するために総合型選抜2期の実施学部増。                 </td> </tr> </table> | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。 | 入学試験の各種データ、学習指導要領、大学入学者選抜実施要項、各種模擬試験データ、他大学の入試動向データ | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 | 2023年度中に根拠データをもとに2024年度に実施する入試制度の設計を行った。<br>・新学習指導要領に基づき2025年度入試における試験科目、出題範囲の見直しおよび事前告知。<br>・大学院入試、編入学試験における外国人留学生の出願資格の見直し。<br>・外国人留学生入試において日本語科目の追加。<br>・志願者を多面的に評価するために総合型選抜2期の実施学部増。 |
| 会議体名称  | 入試委員会   | 議事録有無  | ○     |  |       |                        |  |                                |   |   |   |
| 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。   | 入学試験の各種データ、学習指導要領、大学入学者選抜実施要項、各種模擬試験データ、他大学の入試動向データ   |  |       |  |       |                        |  |                                |   |   |   |
| 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。  | 2023年度中に根拠データをもとに2024年度に実施する入試制度の設計を行った。<br>・新学習指導要領に基づき2025年度入試における試験科目、出題範囲の見直しおよび事前告知。<br>・大学院入試、編入学試験における外国人留学生の出願資格の見直し。<br>・外国人留学生入試において日本語科目の追加。<br>・志願者を多面的に評価するために総合型選抜2期の実施学部増。 |  |       |  |       |                        |  |                                |   |   |   |
| ○  | いいえ   |  |       |  |       |                        |  |                                |   |   |   |
| Ⅲ-（２）2023年度の入試制度は、APと整合性が取れていましたか？   |   |  |       |  |       |                        |  |                                |   |   |   |
| ○  | はい  | ○  | いいえ   | 回答理由→ 本学ではAPを3つの領域(領域1:知識・理解・技能、領域2:思考・判断・表現、領域3:関心・意欲・態度)として定め、各試験方式において評価する領域を入試要項にて明示し、これに基づき入学試験を実施した。 |       |                        |  |                                |   |   |   |
| Ⅲ-（３）各入試とAPとの関連性は、志願者にとって分かりやすく明示されていましたか？   |   |  |       |  |       |                        |  |                                |   |   |   |
| ○  | はい →  | 明示方法を選択してください（複数可）   | ○     | 大学HP   | ○     | 入試広報物（媒体名を記載してください）→   | 入試ガイド、入試要項   |                                |   |   |   |
| ○  | いいえ   |  |       |  | ○     | 学部独自資料（当該資料を別添してください。） | ○  | その他（学習のてびき）                    |   |   |   |
| Ⅲ-（４）. 現状のAP、APに基づく入試制度、運用等について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。  |   |  |       |  |       |                        |  |                                |   |   |   |
| APについては、3つの領域を定め、それぞれの領域でどのような力を求めているかを記載している。しかしながら、入学者選抜方針に関する記載が不十分であり、2024年度に作成する「2026年度入試ガイド、入試要項」においては、各入試種別に対応したAPに基づいた「入学者に求める力」がわかるように記載する。 |   |  |       |  |       |                        |  |                                |   |   |   |

## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（教務部門）

| 教務部長・教学グループ長   |  |
|--|--|
| Ⅴ. 学生アンケートに基づく点検   |  |
| 1. 2023年度キャンパスライフアンケート結果の検証時に「自部門で改善が必要と思われる点」に記載した内容について、2023年度中に実際に改善した点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）を具体的に記載してください。   |  |
| 主に2点の改善を行った。1つ目は抽選科目への対応である。2022年度は1115科目が対象であったが、2023年5月にコロナ禍の制限が解かれたことを踏まえ、2023年度は645科目に絞り学生の受講ニーズに対応した。2つ目は窓口対応である。チームミーティングで丁寧な対応等を心がけることを話し合い改善に務めた。この2点は2024年度も継続する予定。 |  |
| 2. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）   |  |
| 確認・検証会議体名称   | 6/6第4回教務委員会・5/30教学G_MTG  |
| 3. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果のうち、自由記述 <b>以外</b> のデータについて、自部門の観点から評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。（ない場合は“なし”と記載してください。）  |  |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点  | 卒業時のDP成長実感では、「⑦社会と他者に貢献する力」以外は概ね8割以上が成長実感を感じていることが卒業時アンケートから示されており評価できる。 |
| 改善や検討を要する点   | GPSAアンケートでは、「授業役立ち度語学力」など不満足度が高い傾向にあり、原因の調査と分析が必要である。                    |
| 4. 2023年度卒業時アンケート結果の「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。（ない場合は“なし”と記載してください。）  |  |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点  | 専門分野において成長実感を得ることができたという意見が多くあり、教員・職員ともに教育と支援の両輪が上手く機能していると言える。          |
| 改善や検討を要する点   | 部門間のコミュニケーション不全から起こる問題点等の指摘があったため、改善等が必要に感じる。事務局では引き続き、窓口対応を丁寧に行う。       |

2024年度実施 部局別自己点検報告書（法人事務局）

| 広報グループ  |  |                          |   |
|---|--|--------------------------|---|
| 1. 2023年度の学生募集活動は、大学、学部、研究科のDP,CP,APと整合性が取れていましたか？  |  |                          |   |
| ○   | はい   | いいえ                      | 回答根拠 → 教学内容は大学案内冊子の制作をベースに各媒体（Webサイト、その他冊子、進学媒体への広告出稿、説明会でのスライド作成等）に展開しており、大学案内冊子の制作については教員からの事前ヒアリング・原稿確認を経て行っている。 |
| 2. 以下の各項目に関連する教学データのうち、2023年度中（2024年5月末まで）の学生募集活動または2024年度募集活動に向けて、 <b>大学の教育成果の根拠として参照・活用した指標やデータがあれば、全て選択してください。</b> |  |                          |   |
| <input type="checkbox"/>  | 入学時アンケート                                       | <input type="checkbox"/> | キャンパスライフアンケート   |
| <input type="checkbox"/>  | 企業アンケート（学生の就職先）                                | <input type="checkbox"/> | GPS-Academic思考力   |
| <input type="checkbox"/>  | 上記以外 →   | <input type="checkbox"/> | 卒業時アンケート  |
|   |  | <input type="checkbox"/> | 実就職率  |
|   |  | <input type="checkbox"/> | 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）   |
|   |  | <input type="checkbox"/> | 進路決定率   |
| 3. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）                          |  |                          |   |
| 確認・検証会議体名称  | 広報グループミーティング                                   |                          |   |
| 4. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果について、自部門の観点から評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。（ない場合は“なし”と記載してください。）                      |  |                          |   |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点   | なし   |                          |   |
| 改善や検討を要する点  | ミスマッチを防ぐために、教学内容の表現方法、強調するアピールポイントなどは精査していきたい。 |                          |   |

2024年度実施 部局別自己点検報告書（法人事務局）

| 総務グループ  |   |   |       |
|---|---|---|-------|
| 1. 事務組織構成および職員配置の適切性について、2023年度中（2024年5月末まで）に確認・検証を行いましたか？  |   |   |       |
| ○   | はい →  | 会議体名称   | 常務理事会 |
|   |   | 議事録有無   | ○     |
|   | いいえ   | 確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。  |       |
|   |   | 確認・検証を行った結果、2023年度中に改善や変更を行った点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）があれば具体的に記載してください。 |       |
| <p>「専任教職員年齢別一覧」「事務局職員配置予定表」「専任職員採用に伴う中期財政計画シミュレーション表（2024～2027）」「2024～2028人件費シミュレーション結果」</p> <p>【2023年度中に改善や変更を行った点】<br/>各部署の人員配置と業務量の検証および将来の財政予測等をもとに検討した結果、新たに専任職員6名を採用することとし、既存職員の人事異動も併うかたちで2024年4月から6月にかけて、優先的に補強が必要な部署について手当を行った。</p> <p>【2024年度以降変更・改善を予定している点】<br/>引き続き、近年の業務量の増加等により補強が必要な部署については、職員の新規採用や業務委託化によって円滑化を計画している。</p>  |   |   |       |
| 2. 2023年度キャンパスライフアンケート結果の検証時に「自部門で改善が必要と思われる点」に記載した内容について、2023年度中に実際に改善した点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）を具体的に記載してください。  |   |   |       |
| <p>【施設管理関係】</p> <p>①食堂、コンビニエンスストア等福利厚生施設の改善→2023年度は、10月から光彩館・自在館付近のスペースを利用してキッチンカーの導入を開始することで、食堂から離れた場所での利便性向上と選択肢の多様化を図った。2024年度以降は、食堂における混雑緩和のための決済システムの見直しおよび提供メニューの見直しの検討を行う。</p> <p>②スクールバス運行状況の改善→周辺地域との調整や予算面で高いハードルがあるが、24年度以降も引き続き改善に向けた可能性を探る。</p> <p>③老朽施設の計画的修繕（更新）→2023年度は、春秋館や風光館等において老朽化した空調機器の入替え、フットサルコート改修、体育館トレーニングルーム機器の購入等を行った。</p> <p>【情報管理関係】</p> <p>Wifiが繋がりにくい→2023年度は夏季休暇期間を中心に、無線機器の交換をすすめた。2022年度から学内ネットワーク回線、無線機器の速度増強対策をおこなっており、2024年度以降も継続する。</p> <p>【経理関係】</p> <p>授業用材料費の運用における各学部コース間の扱いの差の解消に向けた改善提案→2025年度予算の編成に向けて開催する予算委員会において、当該課題を予算責任者や予算委員に共有し、それを踏まえた予算編成を促す予定。</p> |   |   |       |
| 3. 2023年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。  |   |   |       |
| 確認・検証会議体名称  | 総務グループミーティング(構成員：G長、各リーダー。総務担当理事陪席)   |   |       |
| 4. 2023年度卒業時アンケート結果について、自由記述を中心に、自部門の観点から評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。（ない場合は“なし”と記載してください。）  |   |   |       |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスが無料</li> <li>・お手洗いが綺麗なところ。</li> <li>・安い学食メニューがある（類似意見複数）。</li> <li>・キッチンカーの導入</li> <li>・カフェの居心地がよい。</li> </ul>  |   |       |
| 改善や検討を要する点  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂の日替わり定食の内容がどの曜日でもほぼ同じ。メニューの少なさ（類似意見複数）。</li> <li>・流溪館の雰囲気全体を通して暗い。</li> <li>・カフェのご飯が値段の割におまわりおいしくない。</li> <li>・風光館にある食品自販機のバリエーションを増やしてほしい。インスタント麺などが買えたらよかった。</li> <li>・すべてのトイレにウォッシュレットをつけてほしい。</li> <li>・自転車置き場に屋根を設置する。駐輪場所を増やす。</li> </ul> |   |       |

## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（法人事務局）

| 経営企画グループ   |   |   |       |         |       |   |  |
|--|---|---|-------|---------|-------|---|--|
| 1. 2024年度末までに目指す大学像（グローバルな大学、表現の大学、リベラルアーツの大学）を設定したVISION2024SEIKAの進捗と達成状況について、2023年度中（2024年5月末まで）に確認と検証を行いましたか？   |   |   |       |         |       |   |  |
| ○  | はい →  | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 20%; text-align: left; padding: 2px;">会議体名称</th> <td style="padding: 2px;">経営戦略協議会</td> </tr> <tr> <th style="width: 20%; text-align: left; padding: 2px;">議事録有無</th> <td style="padding: 2px;">○</td> </tr> </table> | 会議体名称 | 経営戦略協議会 | 議事録有無 | ○ | <p>確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。</p> <p>2023年度外部評価委員会最終評価報告書、2023年度 京都精華大学「事業方針 ガイドライン、要改善事項」に関する進捗、事業中間報告特記事業一覧</p> <p>以下の件について、2023年度から2024年度にかけて対応することが確認された</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度中に内部質保証の主要な部分を進める。</li> <li>・留学生対応では、入試での工夫、在留管理、学習支援室との連携など、学生グループだけではなく学生支援を、大きなビジョンのもとに進められるように検討する。</li> <li>・GPS-Academicとポリシーとの紐づけに極力取り組む。</li> <li>・授業評価アンケートの回答率が低い点を是正する。</li> <li>・定員の適正化を図る</li> </ul> |
| 会議体名称  | 経営戦略協議会   |   |       |         |       |   |  |
| 議事録有無  | ○   |   |       |         |       |   |  |
|  | いいえ   |   |       |         |       |   |  |
| 2. 2023年度キャンパスライフアンケート結果の検証時に「自部門で改善が必要と思われる点」に記載した内容について、2023年度中に実際に改善した点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）を具体的に記載してください。 |   |   |       |         |       |   |  |
| 学生応援メニューの欠品を解消するため食堂と会合の機会を持って、今後の対応を検討した。トイレの改修が進むように、教育後援会の支援事業などに指定するなどの措置を取った。                                 |   |   |       |         |       |   |  |
| 3. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになります。）                        |   |   |       |         |       |   |  |
| 確認・検証会議体名称   |   | 経営企画グループ専任ミーティング  |       |         |       |   |  |
| 4. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果について、自部門の観点から評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。（ない場合は“なし”と記載してください。）                   |   |   |       |         |       |   |  |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレのきれいさへのコメントがいくつかあった</li> <li>・教育後援会事業の200円ランチへも肯定的な意見があったため、継続したいと考えた。一方風光や春秋、愛智方面の食事支援の必要性を感じた。</li> <li>・多様性や自由を感じたという意見が数多くあったことが印象的だった。留学生が多い点にも肯定的なコメントがあった。</li> </ul> |   |       |         |       |   |  |
| 改善や検討を要する点   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティ意識浸透や推進のための新しい取り組みを検討したい。</li> <li>・就職のサポートや退学理由について、重要達成項目の就職率にも関わることから実情を確認したい</li> <li>・教職員のSNS運用について、SDを検討したい。</li> </ul>  |   |       |         |       |   |  |

## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（大学事務局）

| グローバル推進グループ   |   |
|---|---|
| 1. 2023年度キャンパスライフアンケート結果の検証時に「自部門で改善が必要と思われる点」に記載した内容について、2023年度中に実際に改善した点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）を具体的に記載してください。      |   |
| 情報の周知を強化するためセイカ・ポータルによる掲示期間を長めに設ける対応を行った。興味のある取組（学内での交流）への反応は良いが、留学説明会等への反応は従来からあまり変化がなく、情報の可視化方法について更なる検討を行う。          |   |
| 2. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになります。）                             |   |
| 確認・検証会議体名称  | グローバル推進グループMTG (6/13)   |
| 3. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果のうち、自由記述 <u>以外</u> のデータについて、自部門の観点から評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。（ない場合は“なし”と記載してください。） |   |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点   | 特になし  |
| 改善や検討を要する点  | 留学・国際交流に関し、該当しないという回答も含め満足度があまり高くなく、留学意向については1年次より3年次に低下していたため、原因分析が必要であることを確認した。また留学とも密接に関連する語学教育に関する満足度にも課題があり、学長よりグローバル推進委員へ正課外教育の検討の要請が行われた。これらに関し次年度に向けてグローバル推進委員会で検討する。   |
| 4. 2023年度卒業時アンケート結果の「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。（ない場合は“なし”と記載してください。）                         |   |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点   | 様々な国から来た人と友達になれたというコメントがあった。iC-Cubeにおける取組の成果であり、より多くの学生が同様の経験を得ることができるよう周知の強化と取組内容の充実に向けた検討を行う。   |
| 改善や検討を要する点  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交換留学生をはじめとする多様な国からの留学生との交流を通じて価値観の違いについて知るプログラムがあれば良いという意見があった。留学生も各々の授業履修があり、正課外活動としてプログラム化することはなかなか難しいが、次年度のiC-Cubeの取組に反映できないか検討する。</li> <li>・語学教育に関する不満と実践的に学ぶ機会があれば良いという意見があった。正課外活動の語学教育に関してはグローバル推進委員会で検討する。</li> </ul> |

## 2024年度実施 部局別自己点検報告書（大学事務局）

| 学長室グループ   |  |
|---|--|
| 1. 2023年度キャンパスライフアンケート結果の検証時に「自部門で改善が必要と思われる点」に記載した内容について、2023年度中に実際に改善した点（または2024年度以降変更・改善を予定している点）を具体的に記載してください。  |  |
| 情報館に関する事項・2023年度中に、館内での在学生利用者に対して注意を行う際に行き過ぎた指導(言葉遣いを含めて)が無いよう厳に慎み、教育的配慮に留意することを、職員および委託会社スタッフとで共有し、徹底した。・資料の充実の要望に対して、情報館管理運営委員会にて、各学部のカリキュラム内容を反映した選書、利用者からの個別リクエストへの対応を実施した。 |  |
| 2. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）  |  |
| 確認・検証会議体名称  | 学長室グループミーティング(2024/06/04開催)にて専任職員全員にて、事前に各自で点検をした上で、学長室グループに関連する業務に関連する項目について確認、検証した。  |
| 3. 2023年度GPS-Aアンケート結果、卒業時アンケート結果のうち、自由記述 <u>以外</u> のデータについて、自部門の観点から評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。（ない場合は“なし”と記載してください。）   |  |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点   | 特になし   |
| 改善や検討を要する点  | 特になし   |
| 4. 2023年度卒業時アンケート結果の「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善検討を要する点をそれぞれ記載してください。（ない場合は“なし”と記載してください。）   |  |
| 評価できる点、更に伸ばしたい点   | <p>&lt;肯定的評価のコメント 計8件&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学修資料、専門資料が充実」「資料の探しやすさ」「静かな学修、制作の環境」「情報館スタッフの丁寧な対応」等があり、自由記述の特に良かったと思う点のテキストマイニングでは、情報館について「充実」「すごい」という単語と共起されることがわかり、在学生の満足度において評価されていることが伺え、引き続き環境と資料の整備に努めたい。</li> </ul> <p>【今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 資料の充実を図るため、カリキュラムに沿った教養、専門資料の選定、購入の継続</li> <li>* 学部教員からの資料充実の提案の吸い上げ、協力依頼（学部選定資料の継続）</li> <li>* 利用者参加型の資料購入の拡充（リクエスト制度、選書会、等）</li> <li>* 4フロアの用途変更をさらに進め、学修、研究の空間としての滞在型利用者の利便性をさらに向上させる</li> </ul>  |
| 改善や検討を要する点  | <p>&lt;改善を求めるコメント 計3件&gt;      ( ) 内は卒業時点の所属学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 24時間オープンの開館時間（人文学部）</li> <li>・ 資料の不足、データベースのアクセス数の少なさ（人文学部、デザイン学部）</li> </ul> <p>【今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常駐のスタッフが在館していなくても開館できる運営方法の一環として以下の取組みについて検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入館だけでなく、退館時にも学生証でゲート開閉方法の設備設置</li> <li>・ 館内の安全確保のための防犯設備設置</li> </ul> </li> <li>・ 学部教員からの資料充実の提案の吸い上げのため、各学部選定資料を継続実施する。特に国際文化学部からの推薦を働きかけ、資料調査、卒業論文作成の際に必要な人文社会学系資料の充実を進める。</li> <li>・ 契約データベースのアクセス数については、既に情報館管理運営委員会においても指摘されており、アクセス数を増加させる(今年度途中から資料別の予算配分を一部変更して、電子資料購入費を増額)</li> <li>・ 紙媒体、電子媒体の購入予算配分を情報館管理運営委員会で継続的に検討している。</li> <li>・ 利用者参加型の資料選書の機会を拡充させる（リクエスト制度、書店での選書会等）</li> </ul> |